



2026年度

東深津南蔵王線2号橋

福山市 東深津町三丁目及び南蔵王町四丁目 地内

橋梁修繕工事 実施設計書

工 事 概 要	当初設計	
	工事延長	L=6.3m
	橋長	L=6.3m
	有効幅員	W=7.5m~11.9m
	ひび割れ補修工	L=43.4m
	断面修復工	V=1.43m ³
	表面被覆工	A=123.3m ²
	笠木取替工	L=6m

特記仕様書

第1章 総則

第1節 適用

- ・本特記仕様書は、橋梁修繕工事（東深津南蔵王線2号橋）に適用する。
- ・本特記仕様書に記載のない事項については、次によるものとする。
- ・令和7年8月 広島県 土木工事共通仕様書、「設計図書（別冊図面、仕様書）」、「福山市建設工事執行規則」、「福山市工事検査技術基準」
- ・その他関連規格類
- ・小黒板情報電子化を実施しない工事写真について、監督員の承諾を得る必要はないものとする。

第2節 工程表の提出について

- ・契約締結後14日以内に設計図書に基づいて、工程表を作成し、発注者に提出すること。工期の変更契約についても同様とする。

第3節 地元への周知

- ・受注者は、監督員と協議し、地先住民、町内会長、土木常設員に工事着手及び工事完了の報告を行うこと。また、工事着手に先立ち地先住民及び貸借人には具体的な施工内容、方法、時期等の説明を行い、承諾を得ること。
- ・受注者は、工事着手の際に、あらかじめ沿線地権者に施工内容等についての説明を行い、承諾を得ること。

第4節 地権者への承諾

- ・地権者に官地内の境界杭等の有無を確認すること。境界杭等がある場合は工事完了後、復旧することとし、地権者が境界杭等はないと回答をした場合であっても、境界杭等の有無を確認しながら、施工しなければならない。受注者は地権者と現地で立会を行い、境界杭等の有無、位置等の確認を行うこととし、事前、事後に写真記録を行い、適切に管理すること。

第5節 施工承認図の作成

- ・受注者は、受注後、設計図書に基づき現地を照査し、施工承認図を作成し監督員に提出すること。

第6節 工事に着手すべき期日について

- ・受注者は、工事開始日以降30日以内に工事着手しなければならない。

第7節 法定外労災保険の付保について

- ・本工事は、法定外の労災保険契約の保険料を見込んでいる。

第2章 施工条件

第1節 検査期間

- ・本工事は、工事検査期間として、14日間を見込んでいる。

第2節 交通誘導警備員

- 1 片側交互通行及び通行止め等の交通制限を行う場合は、関係官公署の許可条件を遵守し、関係機関との協議を十分に行うこと。また、地域の地元関係者等周辺を利用する市民への周知徹底を図り、安全かつ円滑な交通を確保して事故発生の無いように努めること。
- 2 作業現場、作業用地内の整理整頓に留意して必要な安全施設の設置等を行い、関係者以外の立入りを禁止して危険防止に努めること。
- 3 本工事における交通誘導員は、交通誘導警備員Bを見込んでいる。尚、交通誘導警備員の実施伝票は原本を提出すること。
- 4 本工事において交通誘導警備員の積上げ人数は、交通誘導警備員の対象となる施工量に対し作業日当たり標準作業量から必要な人数を見込んでいる。したがって、正当な理由がある場合を除き、施工実績等による交通誘導員の積上げ人数の増員に対する変更は行わない。
- 5 受注者は、工事着手に先立ち、交通誘導警備員の配置計画（配置日数及び配置場所）を作成し、監督員と協議すること。

第3節 熱中症対策

・本工事は、工事現場の熱中症対策に資する経費に関して、現場管理費の補正を行う工事である。

1 工期（工事の始期日から工事の終期日までの期間で、準備期間、施工に必要な実日数、不稼働日及び後片付け期間の合計をいう。なお、検査期間13日間、年末年始6日間（12月29日～1月3日）、夏季休暇3日間（国民の祝日である山の日の次の日から土曜日、日曜日及び振替休日を除く3日間とする。）、工場製作のみを実施している期間、工事全体を一時中止している期間は含まない。）期間中の真夏日の状況に応じて、変更契約時に現場管理費の補正を行うものとする。

2 真夏日とは、日最高気温が30度以上の日をいう。また、日最高暑さ指数（WBGT）が25度以上の日をいう。ただし、夜間工事の場合は、作業時間帯の最高気温又は最高暑さ指数（WBGT）を対象とする。

3 気温の計測箇所及び結果は、施工現場から最寄りの気象庁の地上気象観測所の気温又は環境省が公表している観測地点の暑さ指数（WBGT）を用いることを標準とする。なお、本工事において、上記地上観測所及び観測地点は、「福山」とすることを標準とする。

4 受注者は、工事期間中における気温の計測箇所、用いる計測値及び計測期間（計測開始日、計測終了予定日）を明記した施工計画書を工事着手前に提出し、計測結果を工事完成時までに監督員に提出すること。

5 受注者は、計測終了日について、工事完成時までに監督員と協議するものとする。

6 積算方法は次のとおりとする。

(1) 補正方法

ア 受注者より提出された計測結果の資料を基に、補正値を算出し現場管理費率に加算する。ただし、現場管理費率の補正は、「積算寒冷地域で施工時期が冬期となる場合の補正」、「緊急工事の場合」及び本通知の補正値を合計し、2%を上限とする。

イ 真夏日率＝工期期間中の真夏日÷工期

ウ 補正値（%）＝真夏日率×1.2

(2) 補正値の計算結果は、パーセント表示で少数点3位を四捨五入して2位止めとする。

7 受注者より、熱中症対策に資する現場管理費の補正が不要である旨の協議があった場合は、補正を行う工事から対象外とすることが出来る。

8 検査員から修補の指示があった場合、修補期間は対象外とする。

第4節 建設副産物について

(1) 工事受注者は、工事着手前に、次の書類を本工事の監督員に提出すること。なお、建設発生土については、処分先の現地確認写真を提出すること。

1 建設廃棄物処理計画書

・廃棄物処理業者（収集及び運搬）の許可証の写し（許可車両の自動車登録番号一覧及び自動車検査証の写しを含む）

・廃棄物処理業者（中間処理・最終処分）の許可証の写し（再生資源化施設にあっては、それを示す書類を含む）

・運搬ルート、処分場の位置、事業の範囲、処理能力及び処理方法を明示したもの

・各処分場の現地確認写真

・建設工事の受注者と処理業者（収集、運搬、中間処理・最終処分・再資源化施設）との二者の業務委託契約書の写し

2 再生資源利用計画書

3 再生資源利用促進計画書

(2) 工事受注者は、「再生資源利用計画書」、「再生資源利用促進計画書」及び「建設廃棄物処理計画書」に従い建設廃棄物及び特定建設資材廃棄物が適正に処理されたことを確認し、工事完成時に次の書類を監督員に提出すること。なお、建設発生土については、処分先への搬入状況の写真を添付すること。

1 再生資源利用実施書

2 再生資源利用促進実施書

3 建設廃棄物処理実施書

・マニフェスト（産業廃棄物管理票）の写し及び再生資源化に係るものについては受入伝票の写し

（マニフェストは原則として環境省が示す全国統一のマニフェストを使用する。）

・収集及び運搬の写真並びに中間処理場及び最終処分場（直接最終処分の場合のみ）への搬入状況の写真

第5節 特定建設資材廃棄物（アスファルト塊、コンクリート塊等）

- ・建設リサイクル法対象工事（請負代金額500万円以上）の場合、「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」を遵守し適正に処理すること。また、法第12条第2項に基づき、法第10条第1号から第5号までに掲げる事項について下請負人に告知する場合は、告知書の写しを監督員に提出すること。
 - ・特定建設資材廃棄物は、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」（以下「廃棄物処理法」という）を遵守し、適正に処理しなければならない。
 - ・特定建設資材廃棄物は、広島県（環境局）及び保健所設置政令市（広島市、呉市、福山市）が、廃棄物処理法に基づき許可した適正な施設へ搬出し再資源化しなければならない。
 - ・再資源化に要する費用（運搬費を含む処分費）は、広島県（環境局）及び保健所設置政令市（広島市、呉市、福山市）が廃棄物処理法に基づき許可した適正な施設のうち受入条件が合うものの中から、運搬費と受入費の合計が最も経済的になるものを見込んでいる。従って、正当な理由がある場合を除き再資源化に要する費用（単価）は変更しない。なお、工事発注後に明らかになったやむを得ない事情により、施設への受入が困難な場合は監督員と受注者が協議するものとする。
 - ・搬出先においては、処分状況が確認できるよう、写真撮影を行うとともに、数量等が確認できるように計量伝票等を監督員に提出すること。
- ・マニフェスト（産業廃棄物管理票）の写し及び再生資源化に係るものについては受入伝票の写し
（マニフェストは原則として環境省が示す全国統一のマニフェストを使用する。）

第3章 その他

第1節 その他項目

- ・本特記仕様書及び設計図書に明示していない事項または、その内容に疑義が生じた場合は、監督員の指示を受けること。

総括情報表

変更回数 適用単価地区 単価適用日 諸経費体系	0 70 福山市 00-08.06.01(0) 1 公共(一般)	凡例 Co … コンクリート As … アスファルト DT … ダンプトラック BH … バックハウ CC … クローラクレーン TC … トラッククレーン RTC… ラフテレーンクレーン
	当世代 41 橋梁保全工事 02 市街地(DID補正) 00 補正なし 00 補正なし 00 補正なし 00 補正なし 00 補正なし 00 補正なし 00 通常工事 0% 00 補正無し 01 金銭的保証(0.04%)	前世代
建設技能労働者や交通誘導員等の現場労働者にかかる経費として、労務費のほか各種経費（法定福利費の事業者負担額，労務管理費，安全訓練等に要する費用等）が必要であり，本積算ではこれらを現場管理費等の一部として率計上している。		

本工事費 内訳表

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
本工事費					X1000
橋梁保全工事					Y1G03 レベル1
橋梁補修工	1	式			Y1G0324 レベル2
ひび割れ補修工	1	式			Y1G032404 レベル3
ひび割れ補修工 【材料種類】	1	式			Y1G03240402 レベル4
ひび割れ補修工(低圧注入工法) 補修延べ延長43.4m		構造物			Y1G03240402 レベル4
断面修復工	1	構造物			S1020037 00 単第0 -0001 表
断面修復工	1	式			Y1G032405 レベル3
左官工法 【材料種類】 【鉄筋ケレン・鉄筋防錆処理の有無】		構造物			Y1G03240501 レベル4
断面修復工(左官工法) (鉄筋ケレン・鉄筋防錆処理を含む) 修復延べ体積1.429m3	1	構造物			S1020041 00 単第0 -0002 表

本工事費 内訳表

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
コンクリート殻積込・運搬(断面修復工) [有]DID区間 運搬距離_7.0km以下(5.5km超)	1	m3			S1020051 00 単第0 -0003 表
殻処分 【殻種別】		m3			Y1E01121602レベル4
【直接工事費に含まれる処分費等】 「処分費等」の取扱いによる					#0041
コンクリート塊受入費 再生工場搬入	3	t			F0004 00
鉄筋継手工	1	式			Y1G032402 レベル3
鉄筋工 【支承形式,下部工ブラケット取付の有無】 【支承直下部以外のはつりの有無】		式			Y1G03240201レベル4
コンクリート削孔(電動ハンマドリル) 削孔深さ30mm以上200mm未満	12	孔			SPK25040114 00 単第0 -0005 表
差筋 金属拡張型差筋アンカーD16 L=720mm	6	本			V000000700 00 単第0 -0006 表
差筋 金属拡張型差筋アンカーD16 L=900mm	6	本			V000000600 00 単第0 -0008 表

本工事費 内訳表

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
表面被覆工					Y1G032406 レベル3
	1	式			
下地処理					Y1G03240601 レベル4
		橋			
下地処理 (サンダーケレン)					S3030045 00
	1	橋			単第0 -0009 表
表面被覆					Y1K03040107 レベル4
		m2			
プライマー塗布工 水性エポキシ樹脂系浸透型防水プライマー					V000000300 00
	63	m2			単第0 -0010 表
被覆材塗布工 高分子系浸透性防水材					V000000200 00
	123	m2			単第0 -0011 表
橋梁用防護柵工					Y1G032105 レベル3
	1	式			
部材取替工					Y1G03210501 レベル4
		m			
笠木撤去・設置 6m					V000000500 00
	6	m			単第0 -0012 表

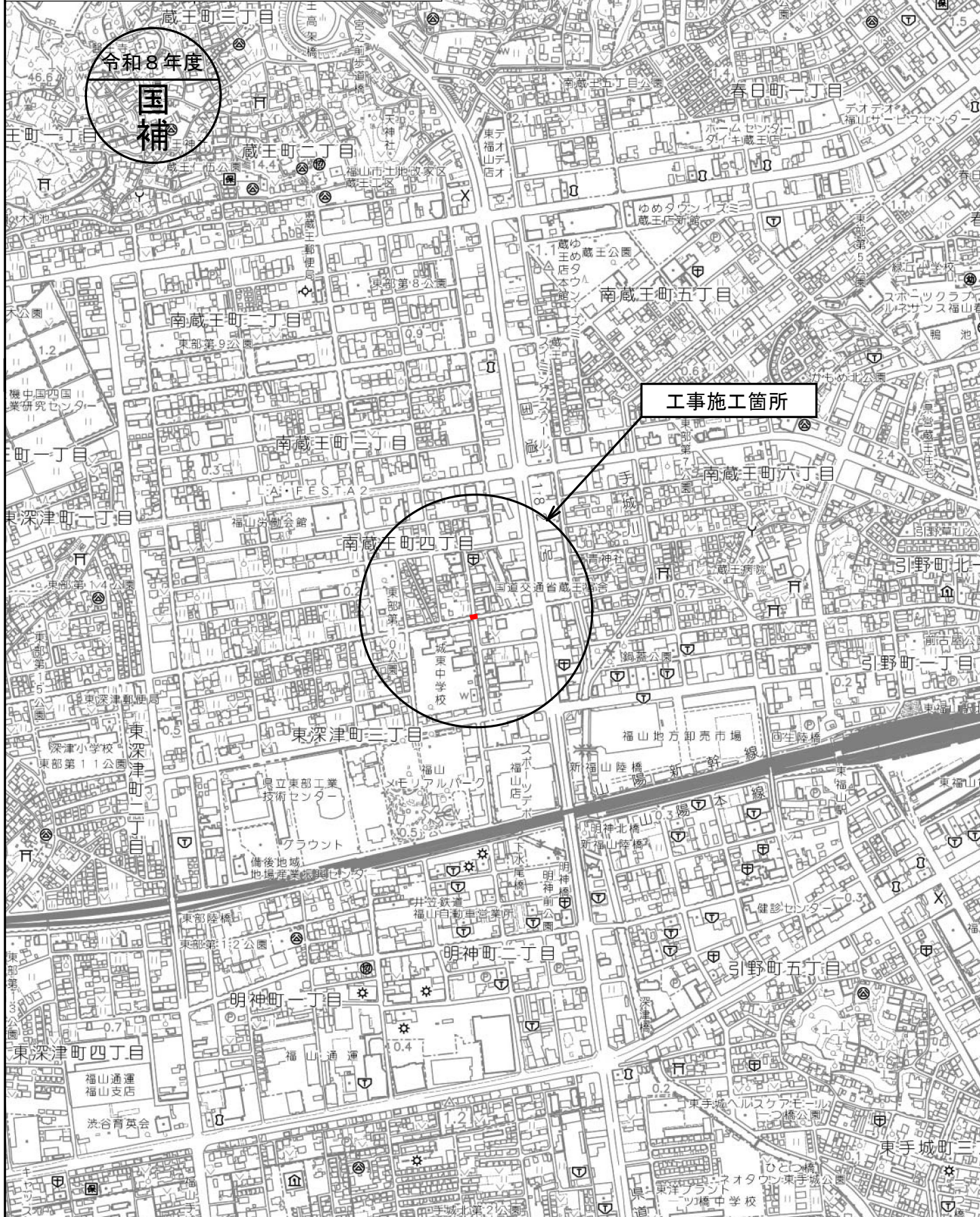
本工事費 内訳表

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
現場発生品運搬 【発生材種類】		回			Y1E01121603レベル4
現場発生品及び支給品運搬 クレーン装置付BT2t積2.9t吊 片道運搬距離3.0km以下(1.5km超)	0.04	t			SPK25040411 00 単第0 -0013 表
【機器単体費】 共通仮設費[対象外]，現場管理費[対象外] 一般管理費[対象外]					#0046
鉄屑(ヘビーH3)	0.04	t			F0005 00
仮設工	1	式			Y1G0328 レベル2
交通管理工	1	式			Y1G032821 レベル3
交通誘導警備員		人			Y1G03282101レベル4
交通誘導警備員B	45	人			R0369 00
** 直接工事費 ** #0020計=支給品等(材料),無償貸付					

本工事費 内訳表

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
共通仮設費率分					Z0019
計算情報..... 対象額..... 率.....					
** 共通仮設費計 **					
** 純工事費 **					
現場管理費 計算情報..... 対象額..... 率.....					
** 工事原価 **					
一般管理費率分 計算情報..... 対象額..... 率.....					前払補正率...
契約保証費 計算情報..... 対象額..... 率.....					当初請対額 当初対象額
一般管理費計					

図面番号	1/10	縮尺	S=1:10,000
工種	橋梁修繕工事		
種別	位置図	番号	
路線名	東深津南蔵王線2号橋		
工事箇所	福山市東深津町三丁目及び南蔵王町四丁目地内		
福山市			



図面番号	2 / 10	縮尺	図示
工種	橋梁修繕工事		
種別	補修一般図	番号	
橋梁名	東深津南蔵王線2号橋		
工事箇所	福山市東深津町三丁目及び南蔵王町四丁目地内		
福山市			

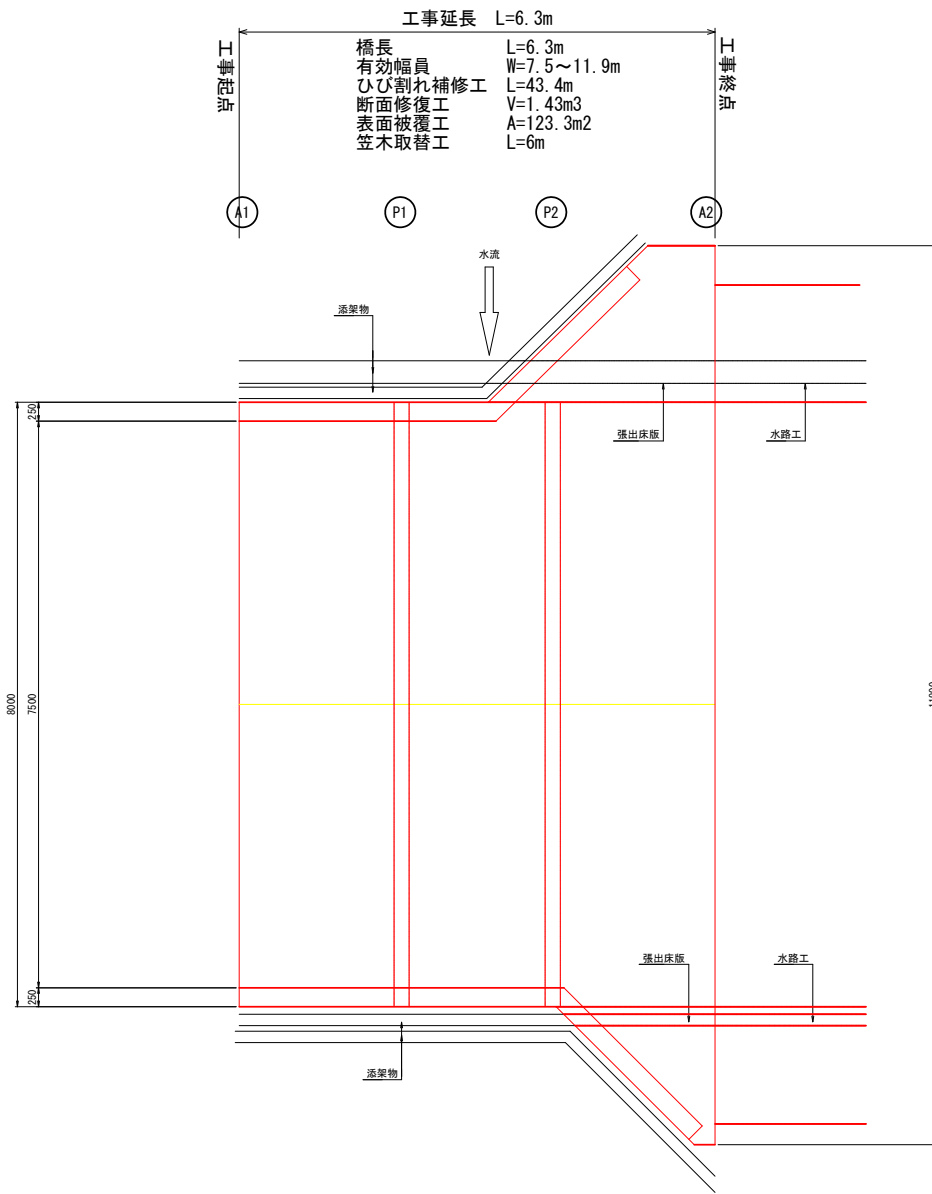
設計年月日：2026年6月



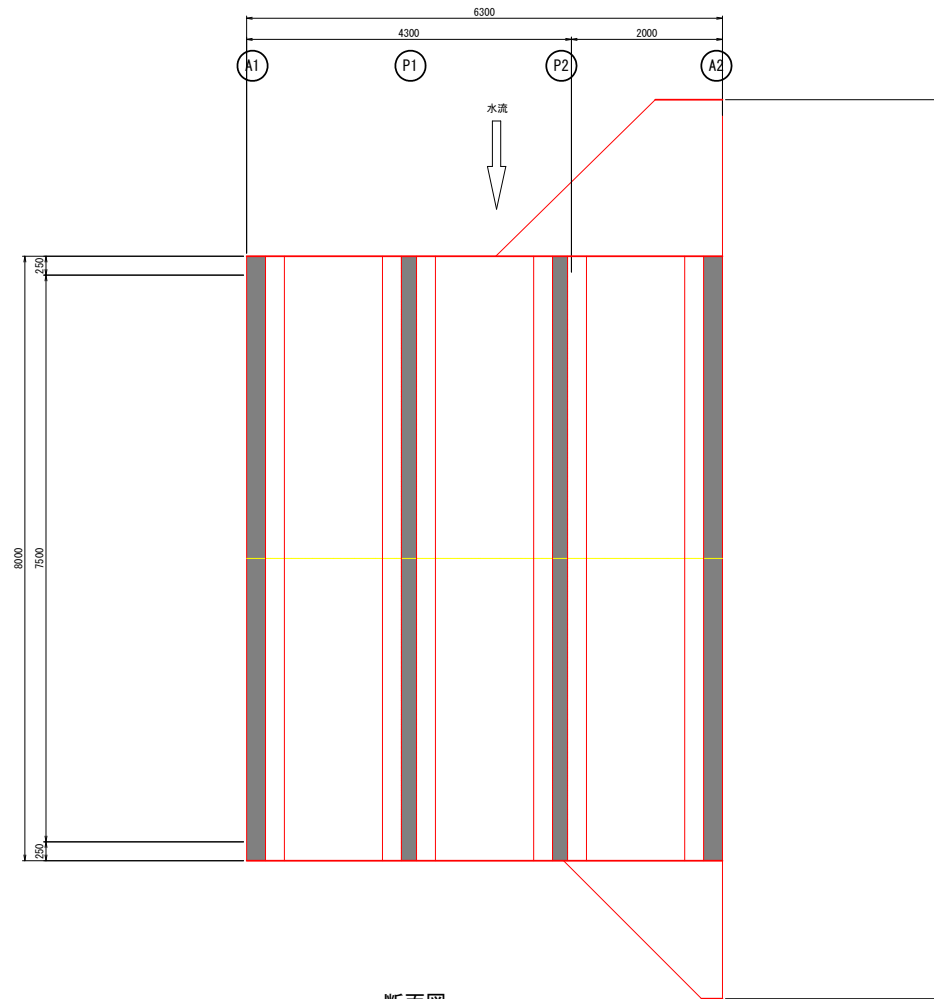
東深津南蔵王線2号橋 補修一般図

S=1:50

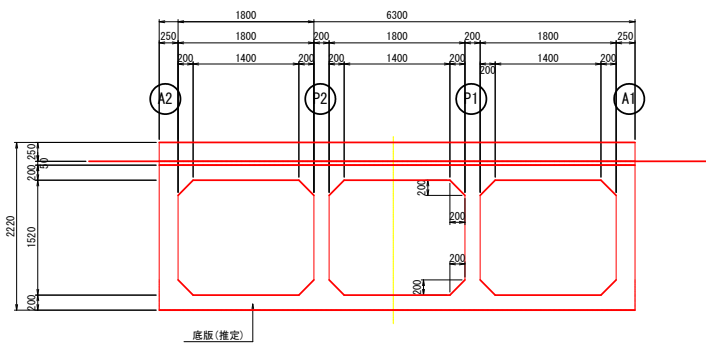
平面図



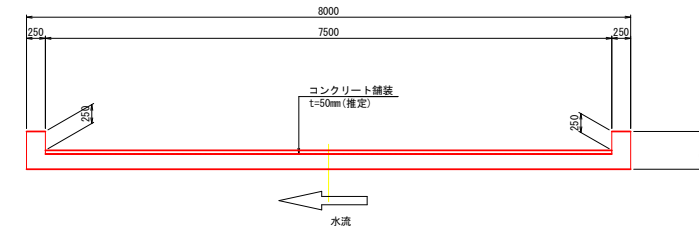
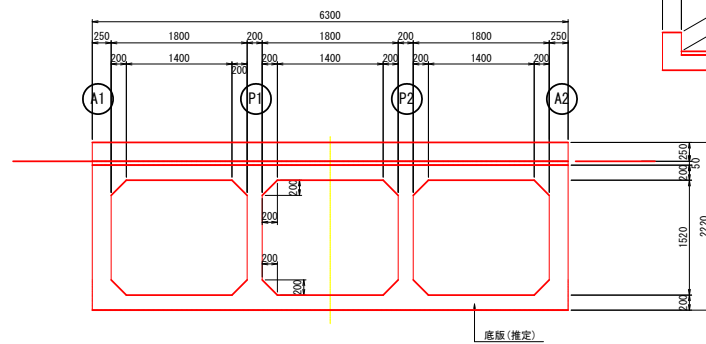
断面図



側面図



側面図



補修工法一覧表

補修工法	補修内容
ひびわれ注入工	エポキシ樹脂系3種
断面修復工	左官工法(塩害対策工法:SS1工法)
表面被覆工	有機系表面被覆工法 高分子系浸透性防水材料
鉄筋継手工	異形鉄筋 D16
笠木取替工	笠木取替

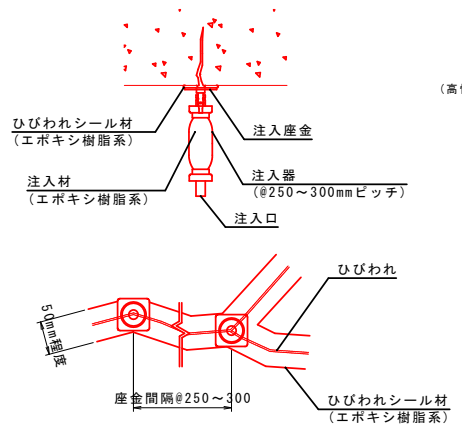
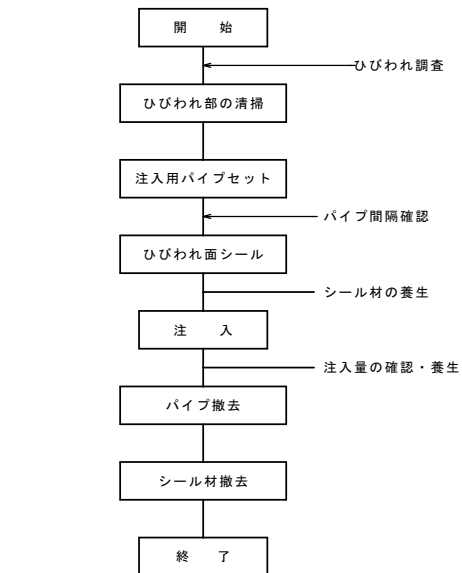
図面番号	3 / 10	縮尺	図示
工種	橋梁修繕工事		
種別	補修工法詳細図	番号	
橋梁名	東深津南蔵王線2号橋		
工事箇所	福山市東深津町三丁目及び南蔵王町四丁目地内		
福山市			

設計年月日：2026年6月



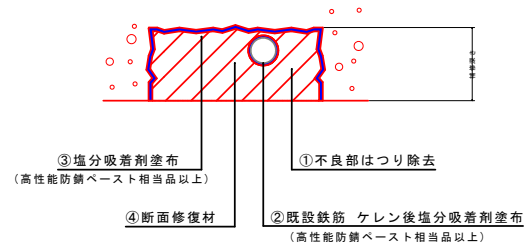
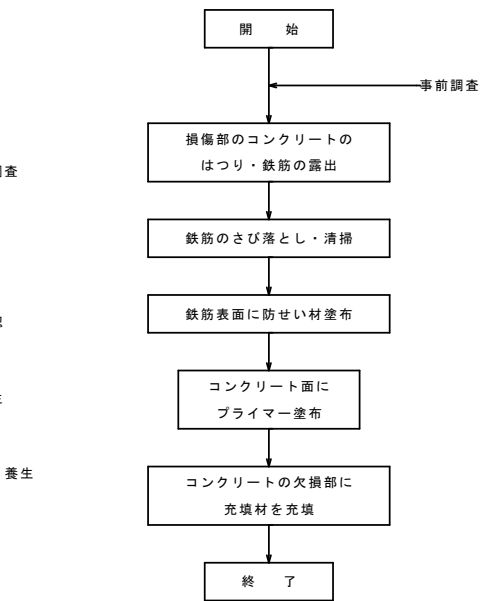
東深津南蔵王線2号橋 補修工法詳細図(参考図)

ひびわれ注入工 (低圧注入工法：エポキシ樹脂系)



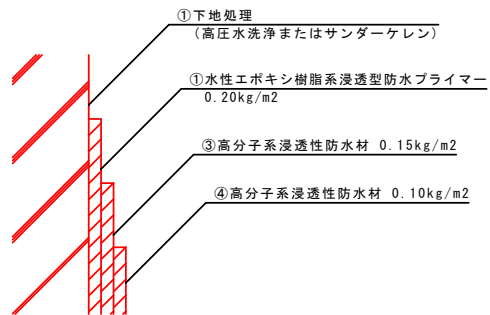
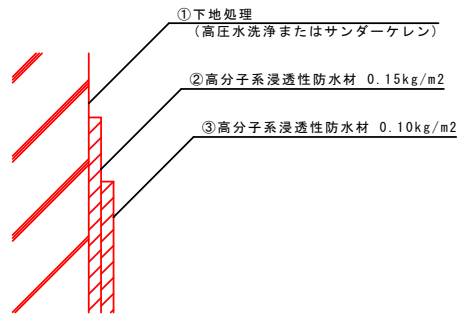
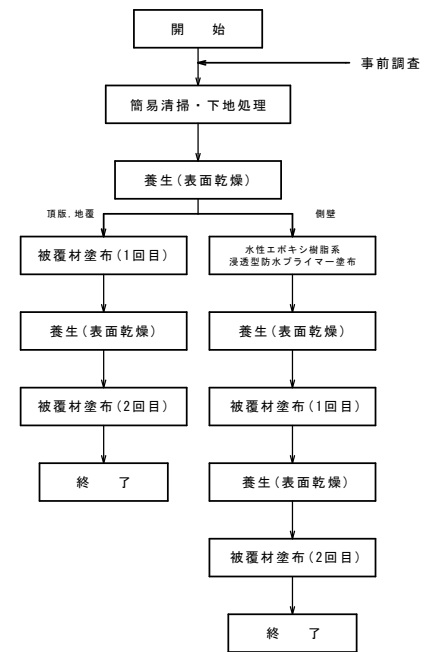
- シール厚さは約3mm程度とすること。
- 0.2mm以上のひびわれに対して行なうこと。
- 注入材はエポキシ樹脂注入材3種を使用すること。

断面修復工 (左官工法)



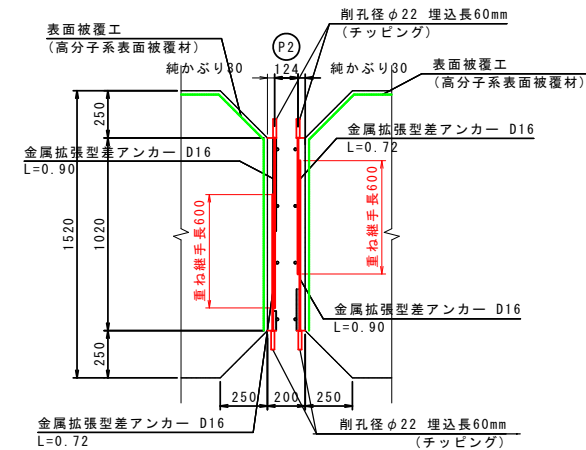
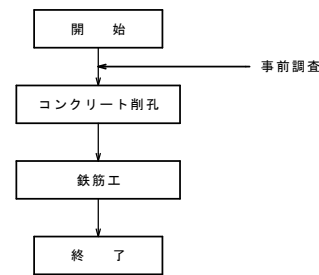
- 鉄筋は背面まではつりだし防錆処理を施すこと。
- 腐食鉄筋の鉄筋断面が著しく減少した箇所は、新たに同径の鉄筋を追加設置すること。
- 鉄筋を追加する場合は、所定の重ね継手長を確保すること。
- 施工に際して一時的な耐力不足の懸念が生じた場合、監督員との協議の上、交通規制または部分施工とすること。

表面被覆工



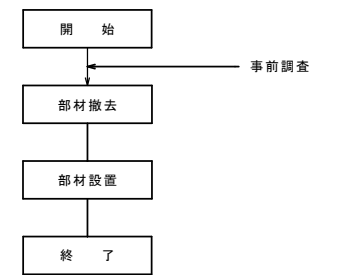
- 表面処理は高分子系浸透性防水材を用いること。
- 下地の表面が乾燥していることを確認したうえで塗布すること。
- 下地処理は基本的に散水や高圧洗浄処理で洗い流す程度であるが、著しい凹凸や付着物等の含浸性を阻害する要因となるものについてはプラスト処理やケレンによって除去・清掃すること。
- 塗布量はコンクリートの状態で調整し、ダレが生じないように数回に分けて塗布すること。
- 塗布方法はローラー・刷毛を用いて均一に塗布すること。

鉄筋継手工



- 事前に現場を確認し、鉄筋の状況を確認すること。
- 鉄筋の補強箇所、数量の確認を行い増減する場合は事前に発注者と協議を行うこと。
- 鉄筋破断箇所においては重ね継手長600以上の補強鉄筋を入れること。
- 施工にあたっては金属拡張型差筋アンカーD16を側壁上面・下面に施工し、中央で重ね継手長を確保すること。
- 既設主鉄筋及び既設配力筋と差筋は結束すること。

笠木取替工



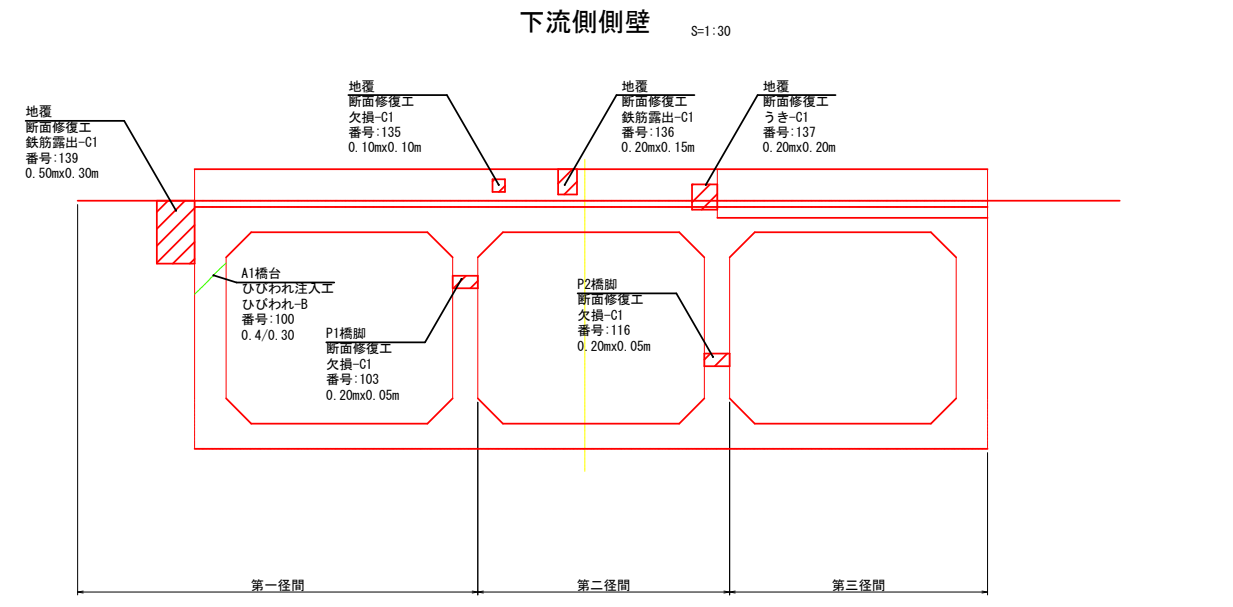
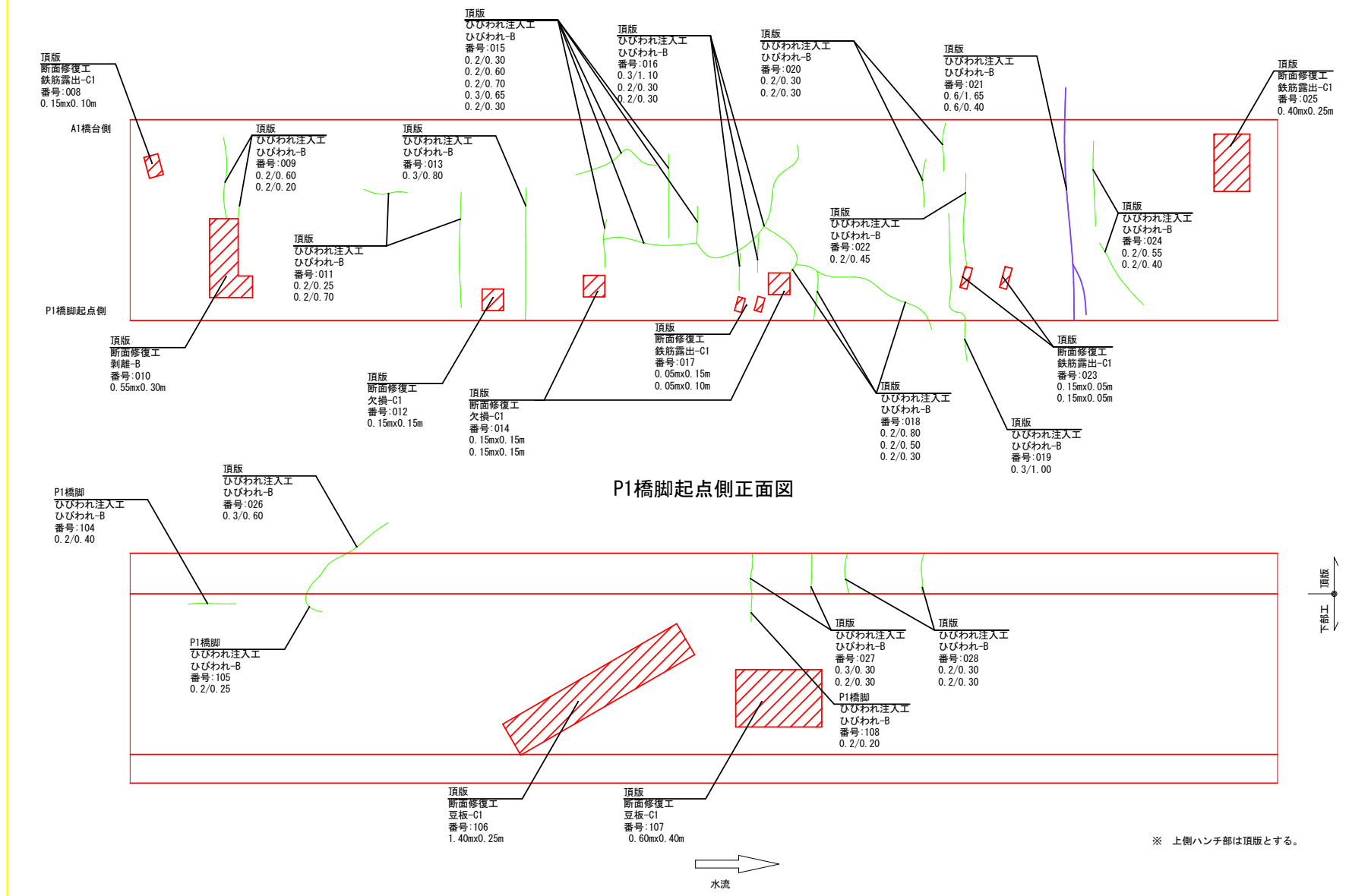
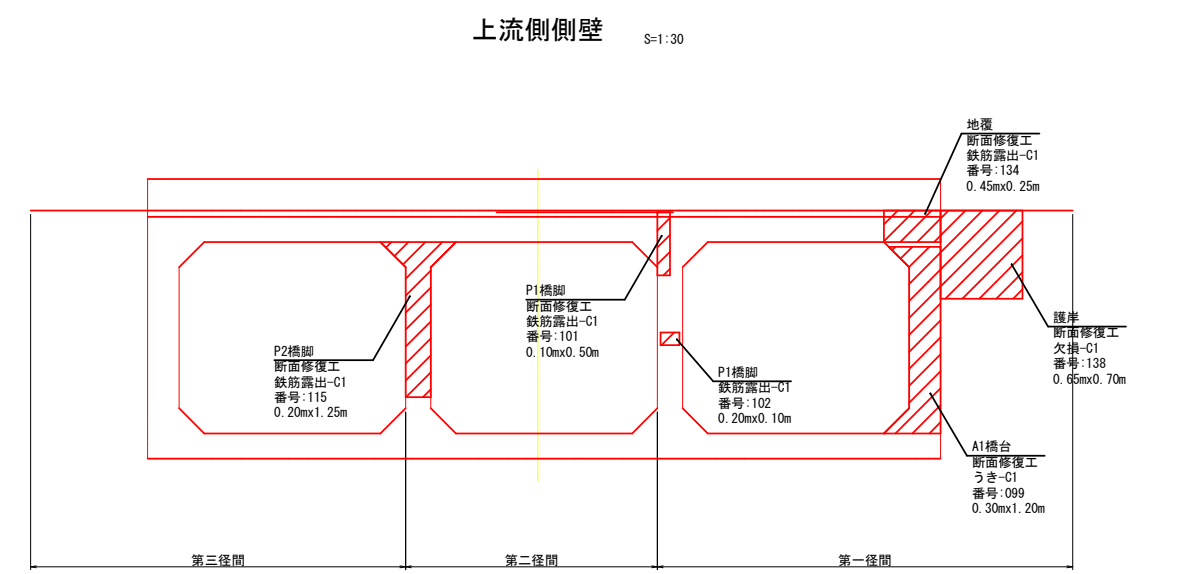
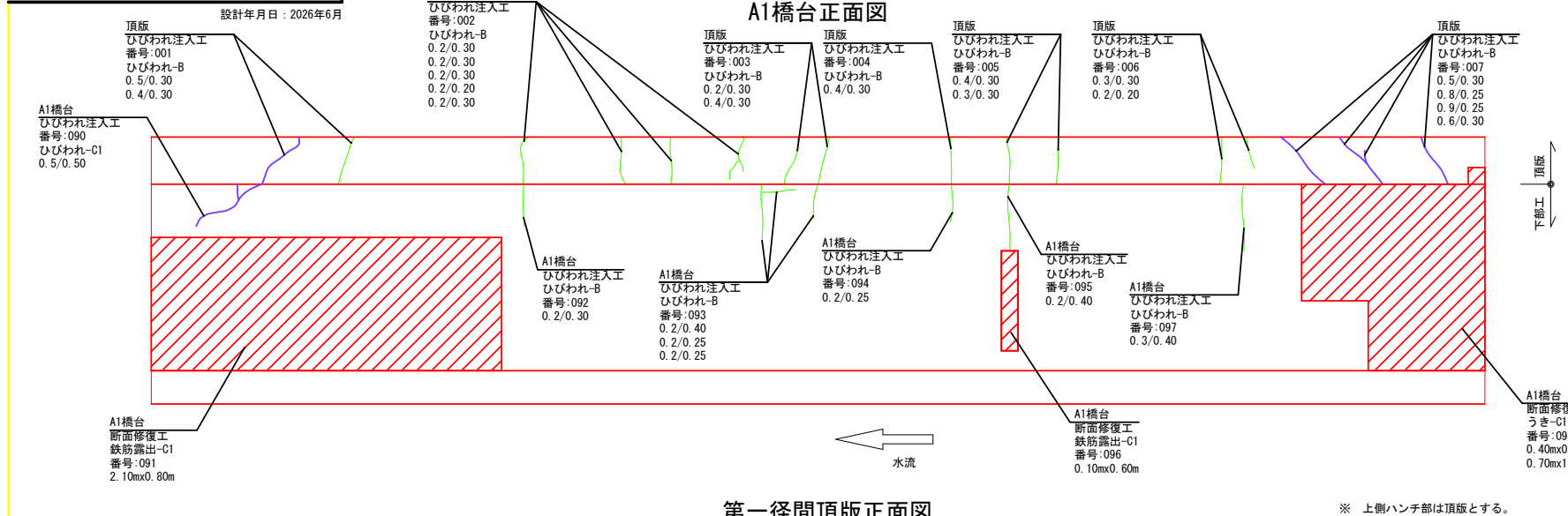
図面番号	4 / 10	縮尺	図示
工種	橋梁修繕工事		
種別	補修図	番号	
橋梁名	東深津南蔵王線2号橋		
工事箇所	福山市東深津町三丁目及び南蔵王町四丁目地内		
福山市			



東深津南蔵王線2号橋 補修図(その1)

S=1:20

凡例	
	補修工法 ひびわれ注入工 (低圧注入工法) (0.2m ≦ W < 0.5m)
	ひびわれ注入工 (低圧注入工法) (0.5m ≦ W < 1.0m)
	断面修復工 (埋着対策工法)
主桁 ひびわれ注入工 番号:000 0.00/0.00	部材名 補修工法 補修種類 補修番号 補修寸法



図面番号	5 / 10	縮尺	図示
工種	橋梁修繕工事		
種別	補修図	番号	
橋梁名	東深津南蔵王線2号橋		
工事箇所	福山市東深津町三丁目及び南蔵王町四丁目地内		
福山市			
設計年月日：2026年6月			



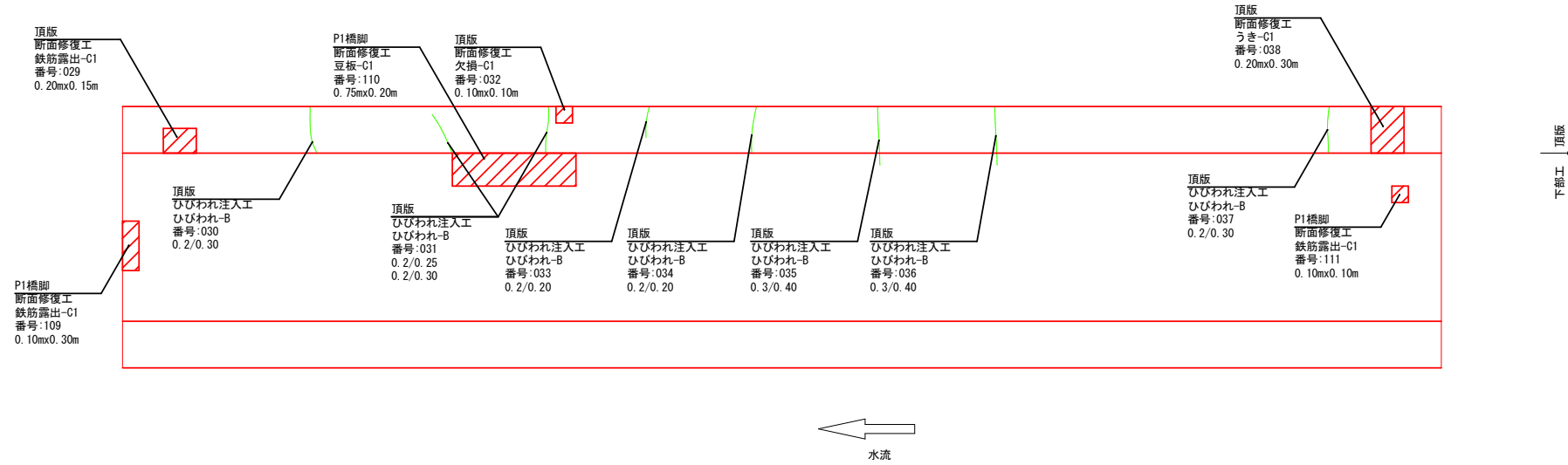
東深津南蔵王線2号橋 補修図(その2)

S=1:20

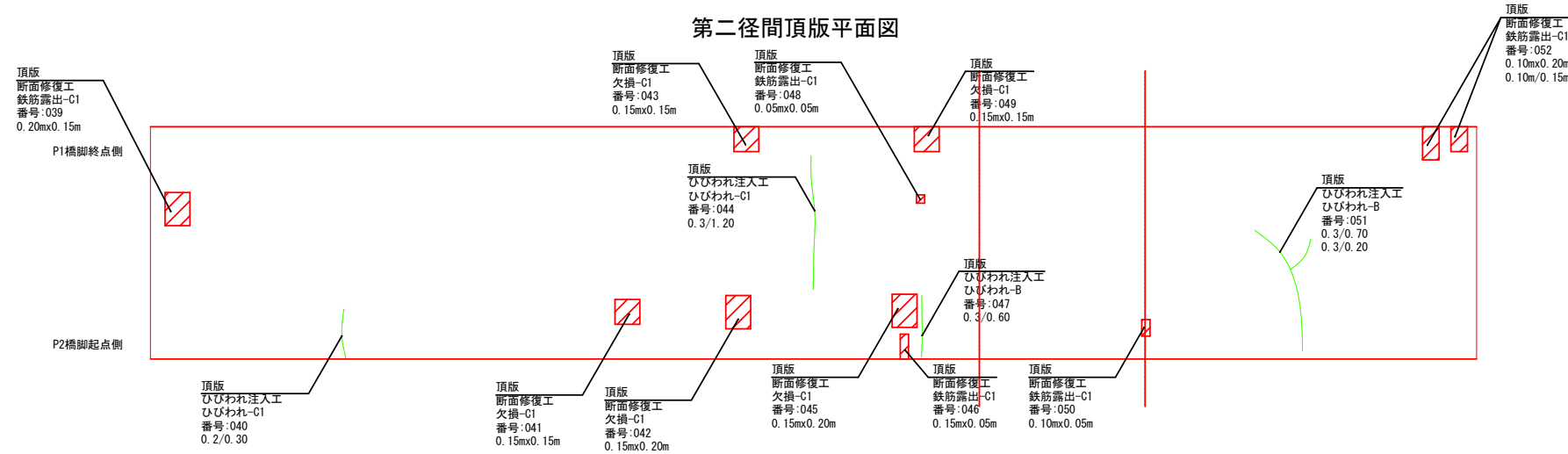
凡例

補修工法	
	ひびわれ注入工(低圧注入工法) (0.2mm ≦ W < 0.5mm)
	ひびわれ注入工(高圧注入工法) (0.5mm ≦ W < 1.0mm)
	断面修復工(埋着対策工法)
主桁	部材名
ひびわれ注入工	補修種類
番号:000	補修番号
0.00/0.00	補修寸法

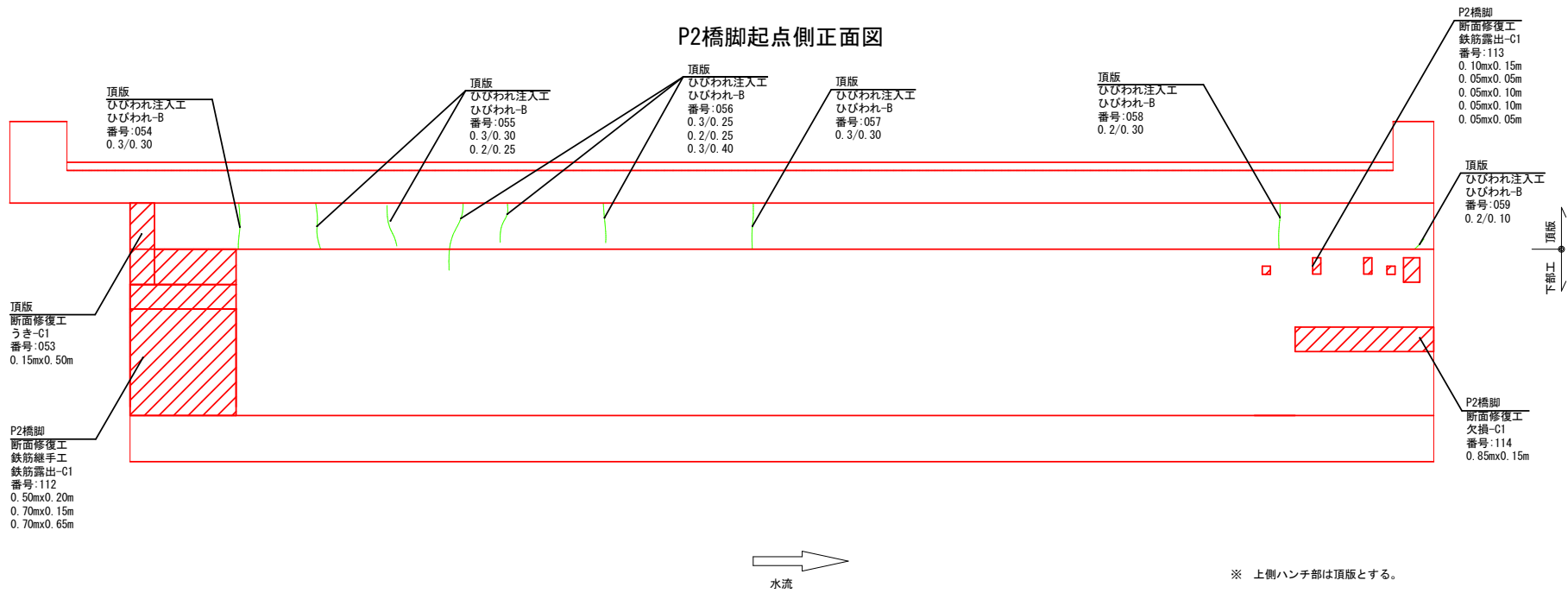
P1橋脚終点側正面図



第二径間頂版平面図



P2橋脚起点側正面図



図面番号	6 / 10	縮尺	図示
工種	橋梁修繕工事		
種別	補修図	番号	
橋梁名	東深津南蔵王線2号橋		
工事箇所	福山市東深津町三丁目及び南蔵王町四丁目地内		
福山市			
設計年月日：2026年6月			

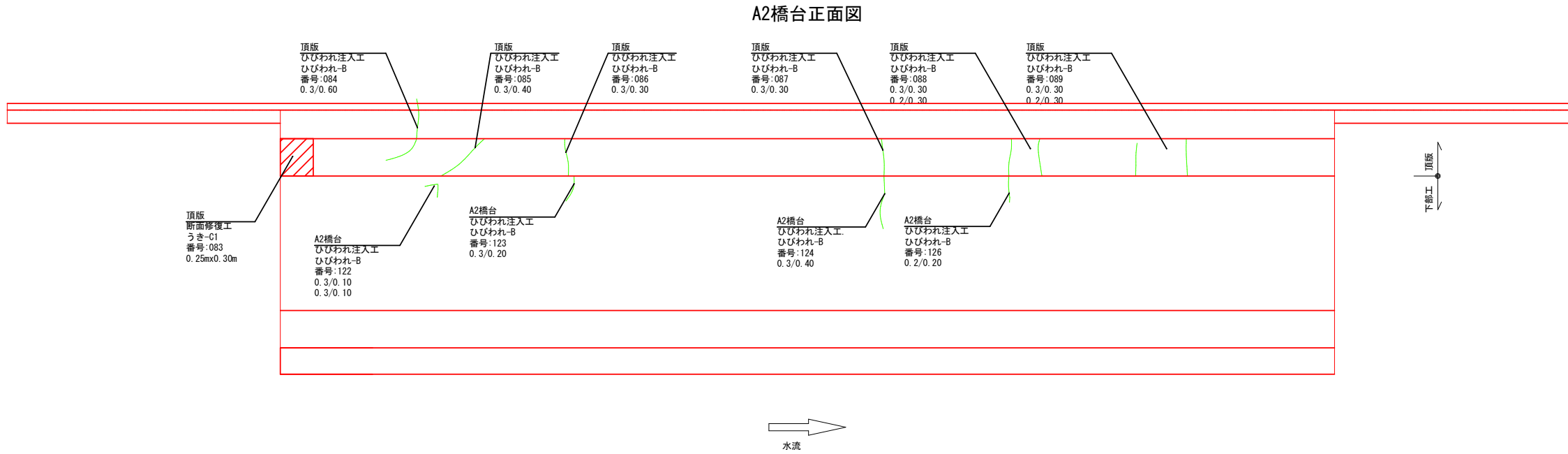
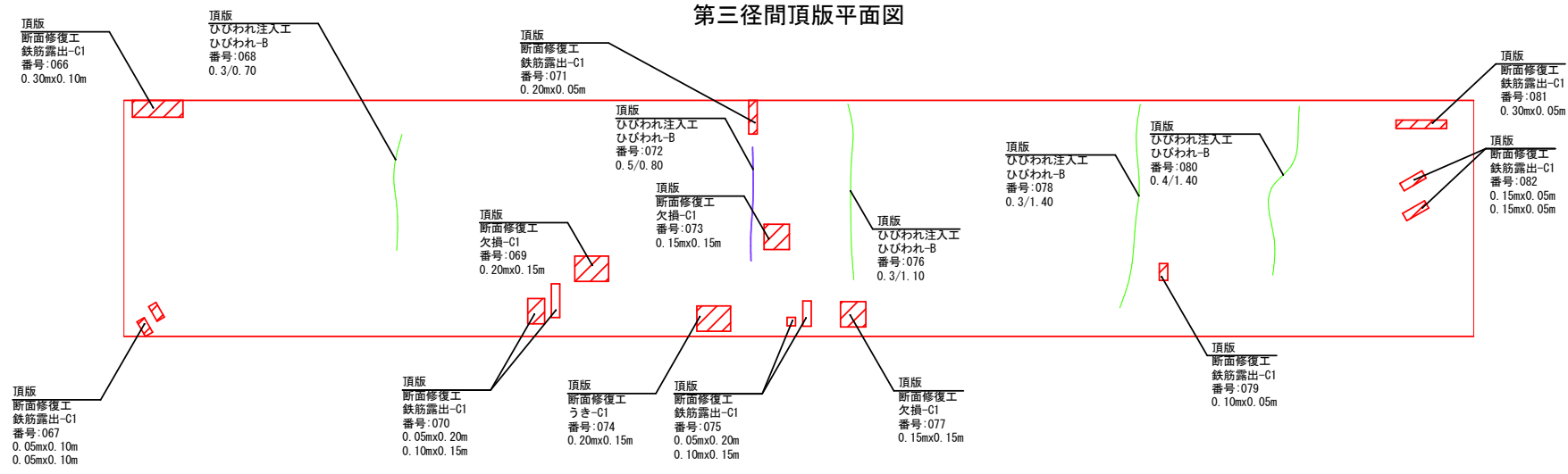
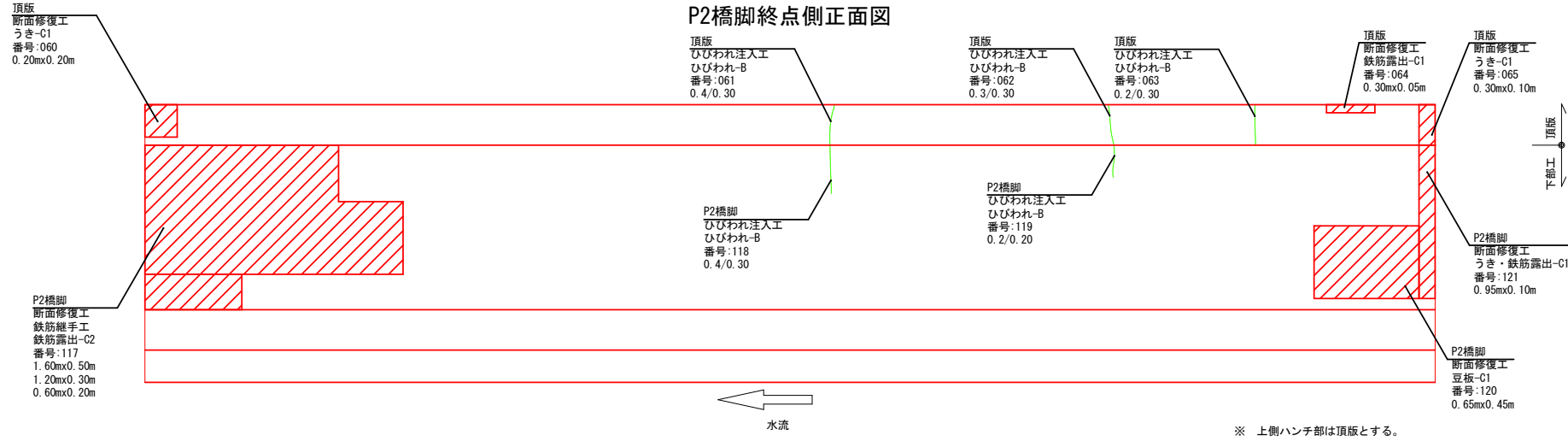


東深津南蔵王線2号橋 補修図(その3)

S=1:20

凡例

補修工法	
	ひびわれ注入工 (低圧注入工法) (0.2mm ≦ W < 0.5mm)
	ひびわれ注入工 (低圧注入工法) (0.5mm ≦ W < 1.0mm)
	断面修復工 (填骨対策工法)
主桁	部材名
ひびわれ注入工	補修工法
ひびわれ-d	補修種類
番号:000	補修番号
0.00/0.00	補修寸法



図面番号	7 / 10	縮尺	図示
工種	橋梁修繕工事		
種別	補修図	番号	
橋梁名	東深津南蔵王線2号橋		
工事箇所	福山市東深津町三丁目及び南蔵王町四丁目地内		
福山市			

設計年月日：2026年6月



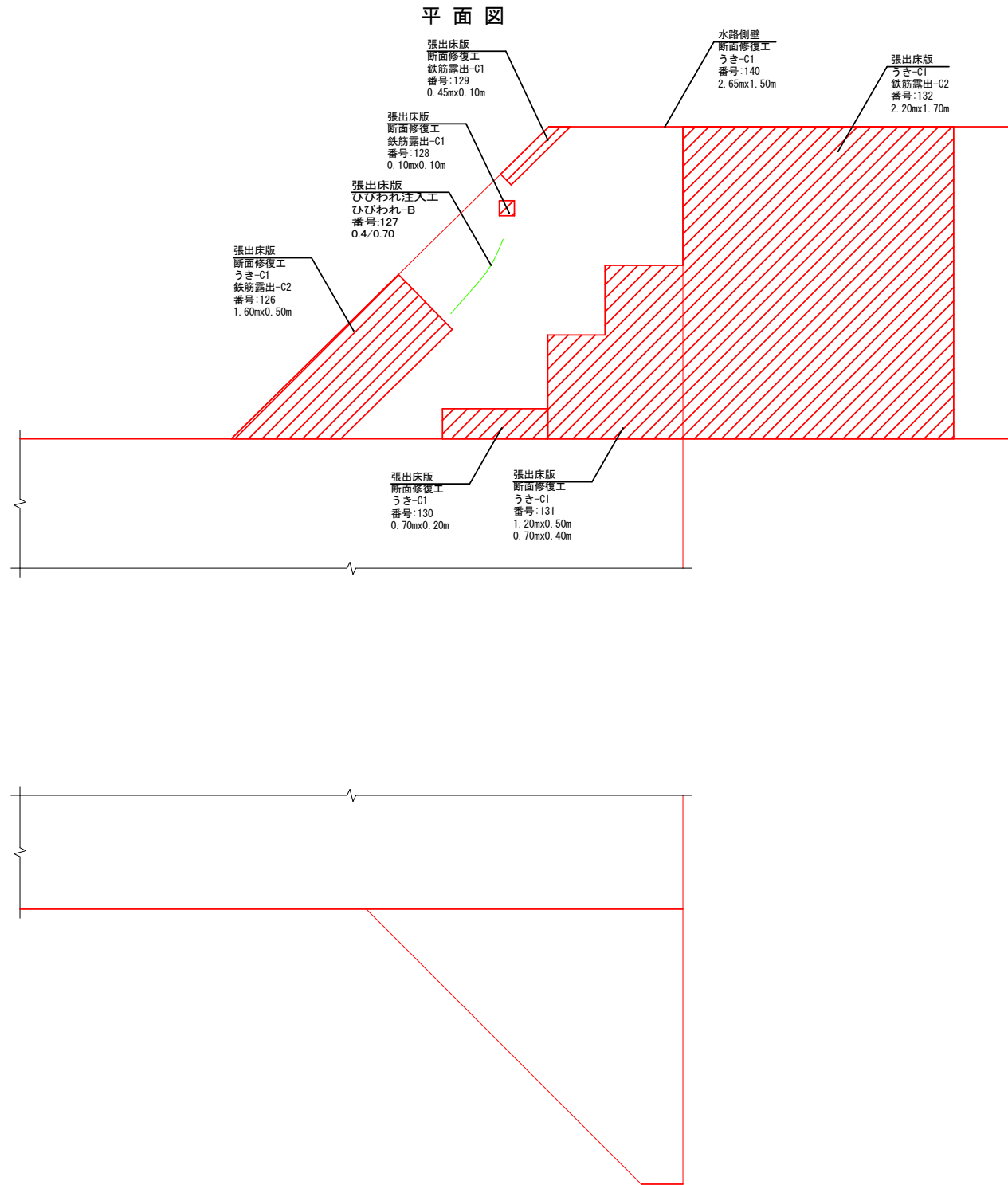
東深津南蔵王線2号橋 補修図(その4)

S=1:20

張出床版

凡例

補修工法	
	ひびわれ注入工 (低圧注入工法) (0.2m ≦ W < 0.5m)
	ひびわれ注入工 (低圧注入工法) (0.5m ≦ W < 1.0m)
	断面修復工 (塩害対策工法)
主桁 ひびわれ注入工 番号:000 0.00/0.00	部材名 補修工法 補修種類 補修番号 補修寸法



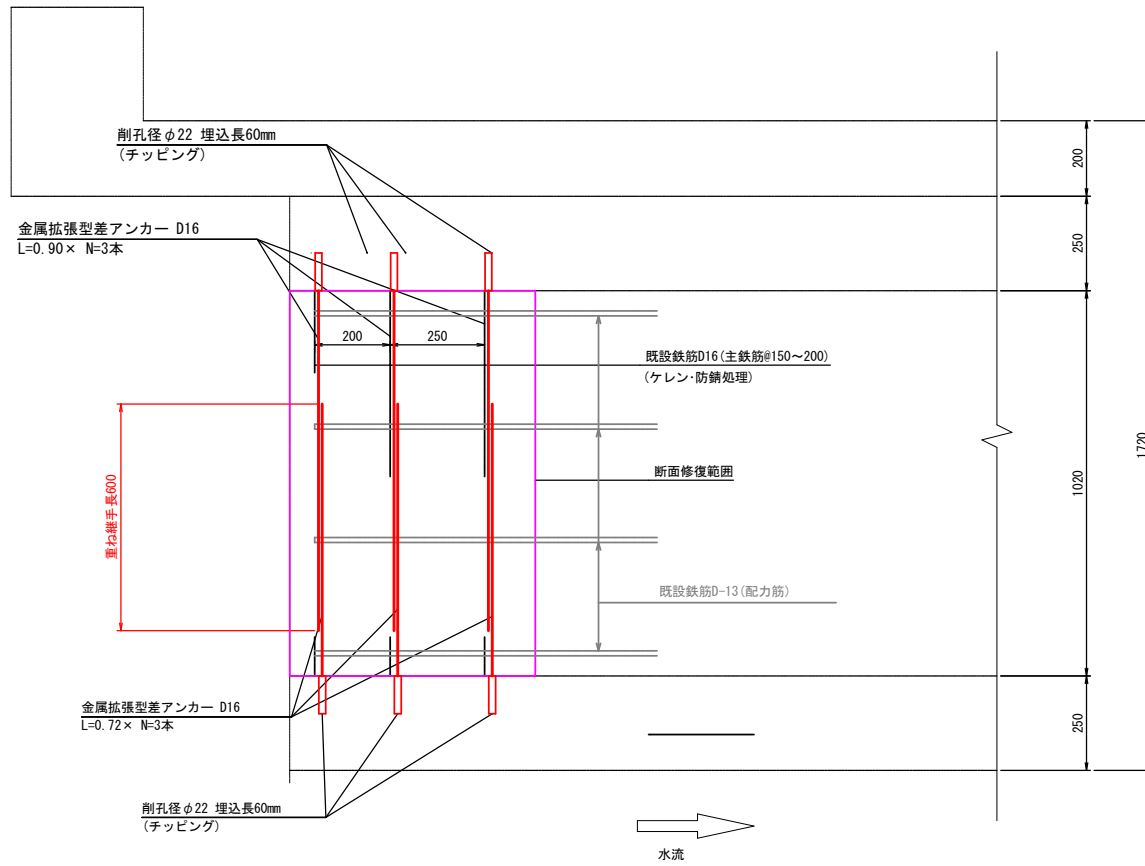
図面番号	8 / 10	縮尺	図示
工種	橋梁修繕工事		
種別	補修図	番号	
橋梁名	東深津南蔵王線2号橋		
工事箇所	福山市東深津町三丁目及び南蔵王町四丁目地内		
福山市			
設計年月日：2026年6月			

東深津南蔵王線2号橋 補修図(その5)

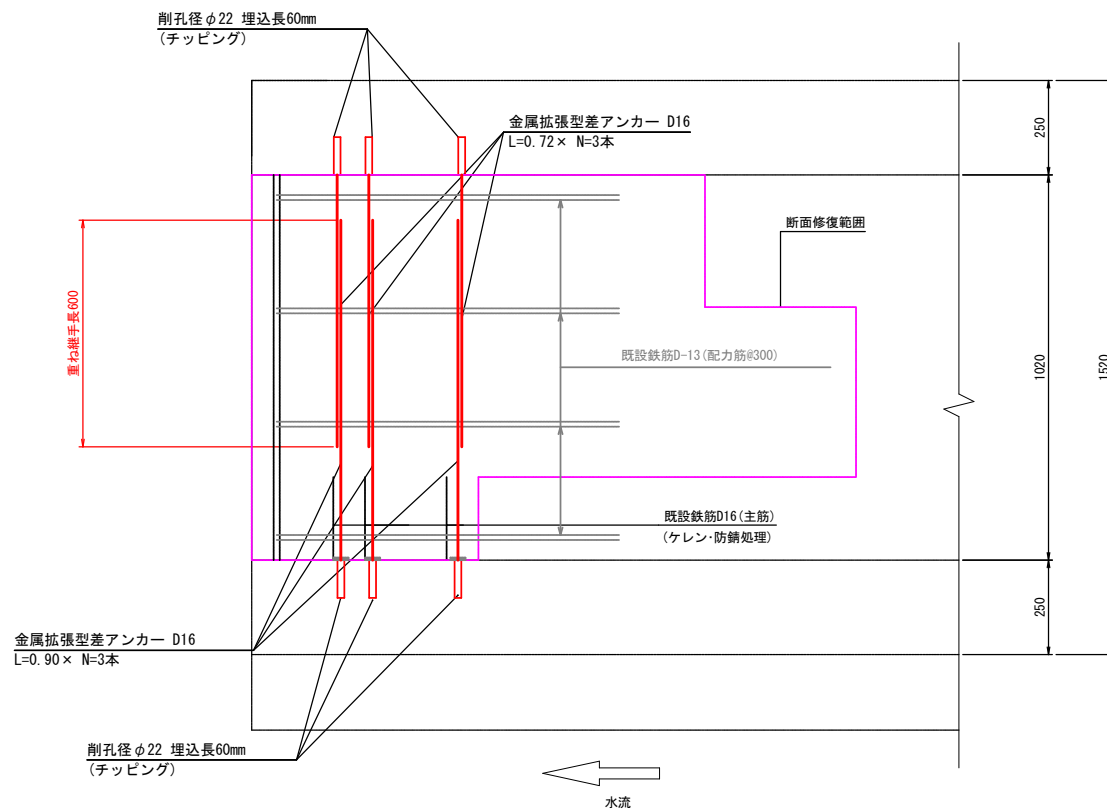
S=1:10



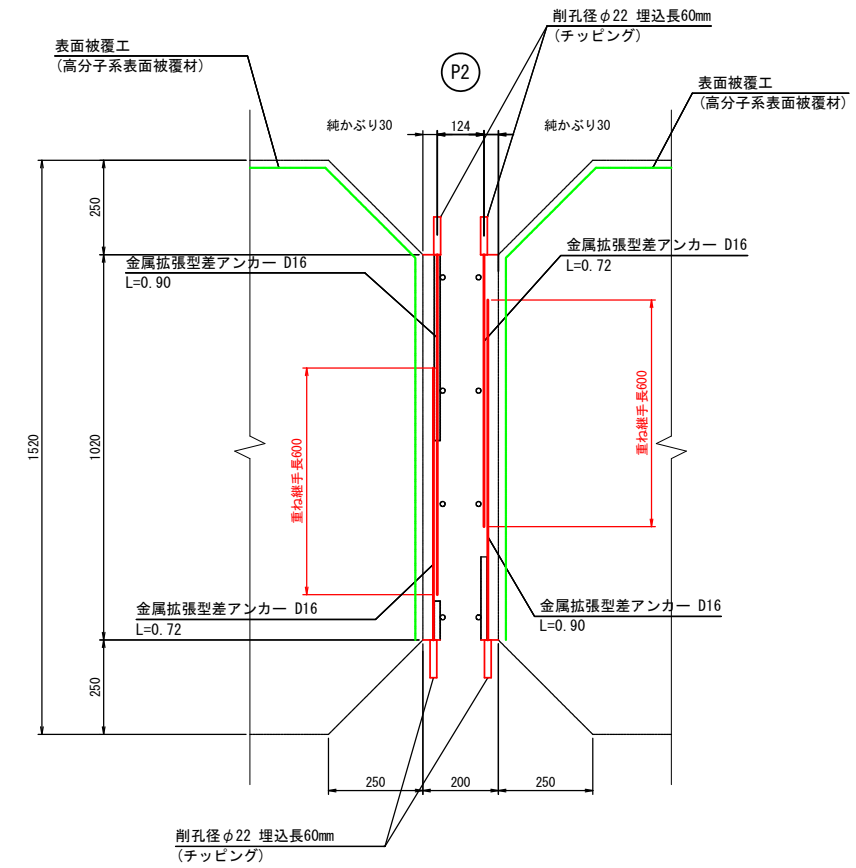
P2橋脚起点側正面図



P2橋脚終点側正面図



断面図



数量表 (1)

名称・種別・規格	長さ	鉄筋単位質量	1本当りの質量	本数	質量(kg)
金属拡張型差筋アンカー-D16	0.90	1.560kg/m	1.404kg	6	8.424
金属拡張型差筋アンカー-D16	0.72	1.560kg/m	1.123kg	6	6.738
				合計	15.162

数量表 (2)

名称・種別・規格	細別	数量	単位	備考
コンクリー削孔下向き	φ22×削孔長60mm	6	孔	
コンクリー削孔上向き	φ22×削孔長60mm	6	孔	
	合計	12	孔	

1. 事前に現場を確認し、鉄筋の状況を確認すること。
2. 鉄筋の補強場所、数量の確認を行い増減の場合は事前に発注者と協議を行うこと。
3. 鉄筋切断箇所においては重ね継手長600以上の補強鉄筋を入れること。
4. 施工にあたっては金属拡張型差筋アンカー-D16を側壁上面・下面に施工し、中央で重ね継手長を確保すること。
5. 既設主鉄筋及び既設配力筋と差筋は結束すること。

図面番号	9 / 10	縮尺	図示
工種	橋梁修繕工事		
種別	補修図	番号	
橋梁名	東深津南蔵王線2号橋		
工事箇所	福山市東深津町三丁目及び南蔵王町四丁目地内		
福山市			

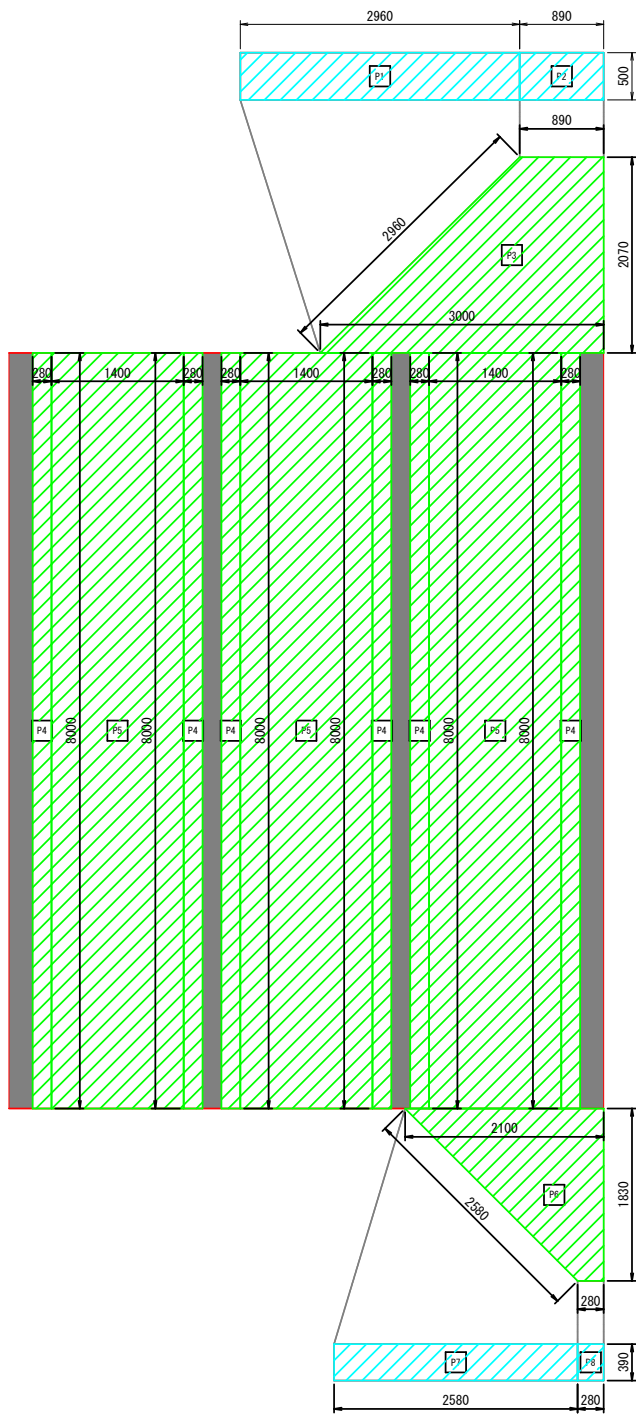
設計年月日：2026年6月



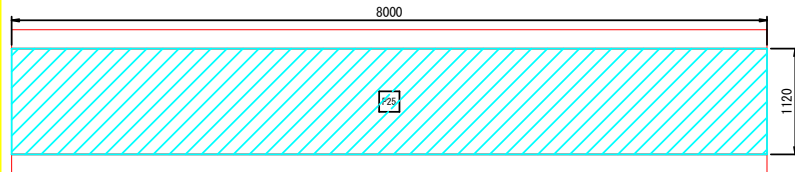
東深津南蔵王線2号橋 補修図(その6)

S=1:40

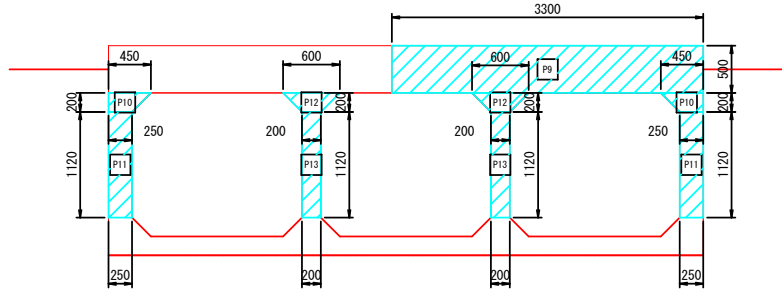
頂版展開図



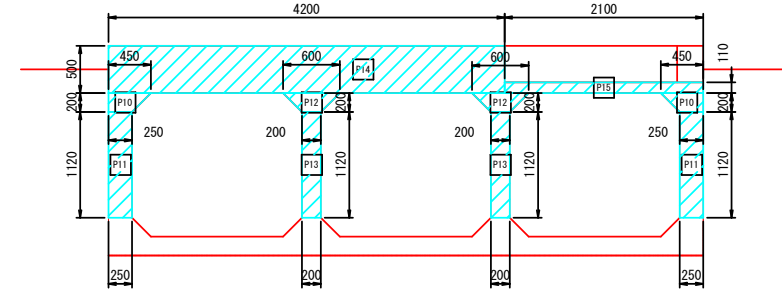
A1橋台正面図



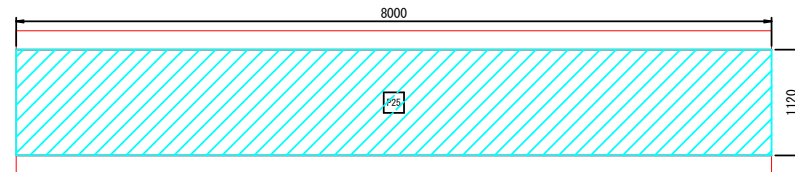
上流側側面図



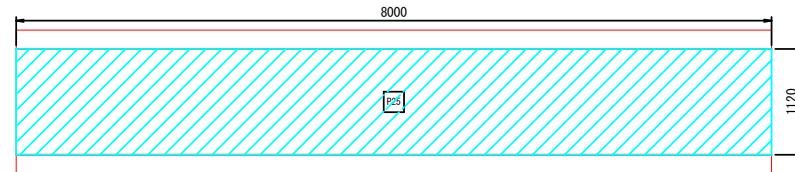
下流側側面図



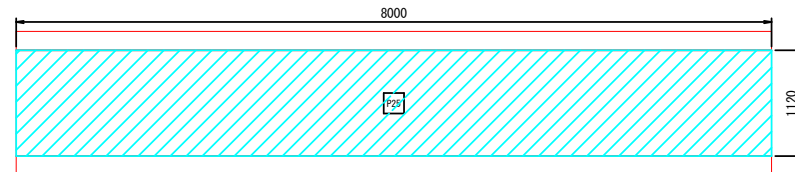
P1橋脚起点側正面図



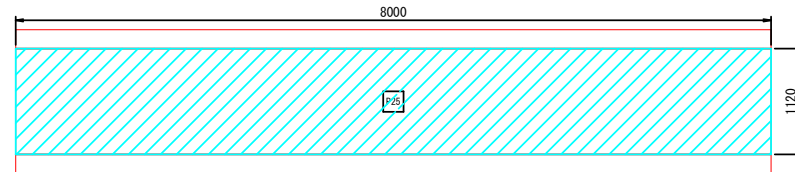
P1橋脚終点側正面図



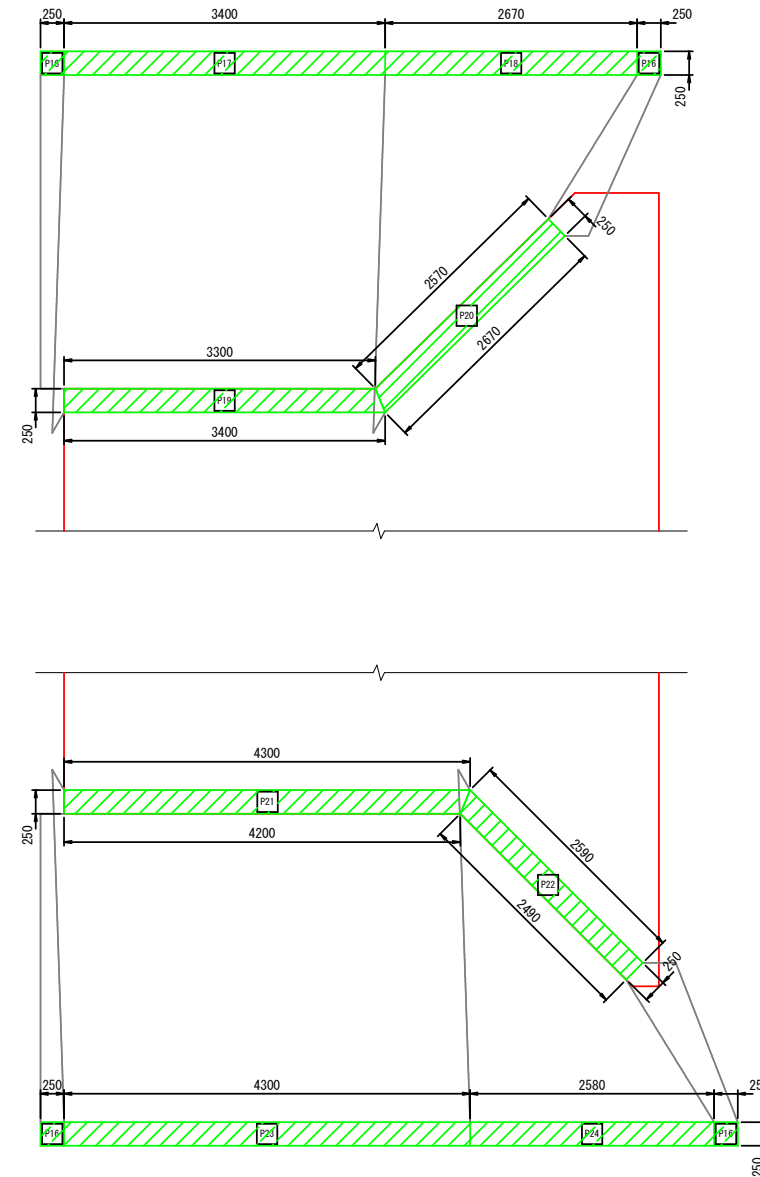
P2橋脚起点側正面図



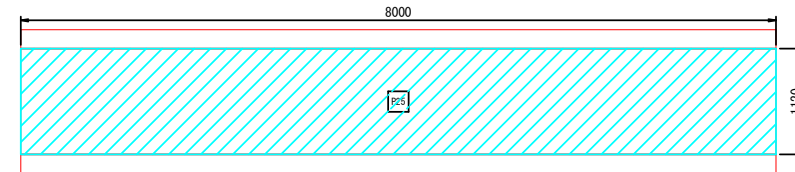
P2橋脚終点側正面図



路面展開図



A2橋台正面図



凡例

補修工法	
P	表面被覆工
P	表面被覆工 水性工用キシ樹脂系浸透型防水プライマー
P0	補修工法 補修番号

- ※ 表面処理材は高分子系表面被覆材とする。
- ※ コンクリート表面の高圧洗浄・ケレンは十分に行うこと。 ※ 気温0℃以下では施工しないこと。
- ※ 気温0℃以下では施工しないこと。
- ※ 土砂堆積、植生、鳥の巣、ふん等がある場合は、撤去を行うこと。

表面被覆工数量表(高分子系表面被覆材)

番号	形状・寸法・面数	補修面積 (m ²)
P1	2.960×0.500×1	1.480
P2	0.890×0.500×1	0.445
P3	2.070×(0.890+3.000)/2×1	4.026
P4	0.280×8.000×6	13.440
P5	1.400×8.000×3	33.600
P6	1.830×(2.100+0.280)/2×1	2.178
P7	2.580×0.390×1	1.006
P8	0.280×0.390×1	0.109
P9	3.300×0.500×1	1.650
P10	0.200×(0.450+0.250)/2×4	0.280
P11	0.250×1.120×4	1.120
P12	0.200×(0.600+0.200)/2×4	0.320
P13	0.200×1.120×4	0.896
P14	4.200×0.500×1	2.100
P15	2.100×0.110×1	0.231
P16	0.250×0.250×4	0.250
P17	3.400×0.250×1	0.850
P18	2.670×0.250×1	0.668
P19	0.250×(3.300+3.400)/2×1	0.838
P20	0.250×(2.570+2.670)/2×1	0.655
P21	0.250×(4.300+4.200)/2×1	1.063
P22	0.250×(2.590+2.490)/2×1	0.635
P23	4.300×0.250×1	1.075
P24	2.580×0.250×1	0.645
P25	8.000×1.120×6	53.760
合計		123.320

図面番号	10 / 10	縮尺	図示
工種	橋梁修繕工事		
種別	補修図	番号	
橋梁名	東深津南蔵王線2号橋		
工事箇所	福山市東深津町三丁目及び南蔵王町四丁目地内		
福山市			

設計年月日：2026年6月



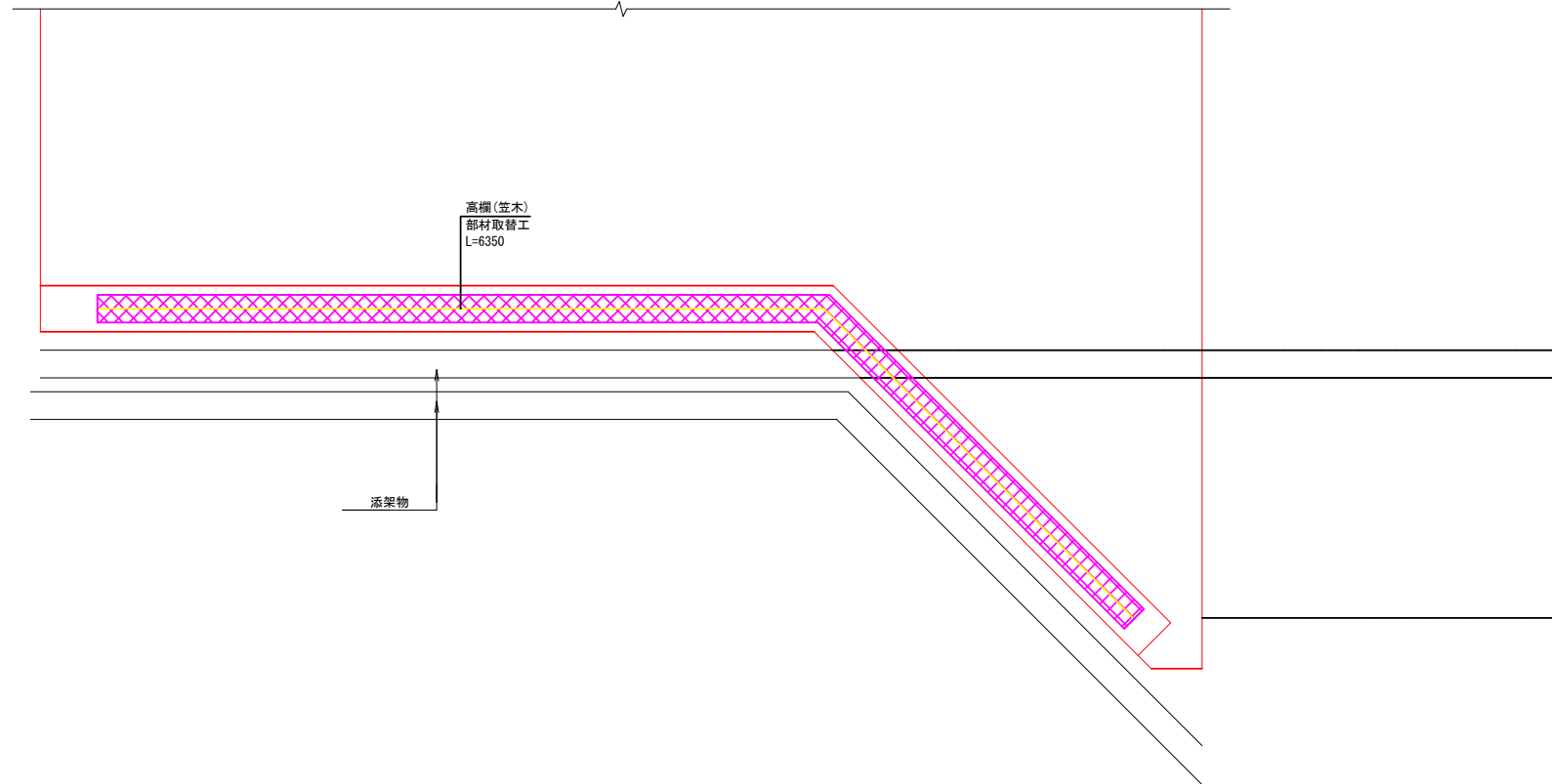
東深津南蔵王線2号橋 補修図(その7)

S=1:20

防護柵

凡例

補修工法	
	ひびわれ注入工(縦圧注入工法) (0.2mm ≦ W < 1.0mm)
	部材取替工
主桁	部材名
ひびわれ注入工	補修工法
ひびわれ-d	補修種類
0.00/0.00	補修寸法



参 考 图 书

施工単価表

ひび割れ補修工(低圧注入工法)
補修延べ延長43.4m

S1020037

単第0 -0001 表

1

構造物 当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
土木一般世話役	2.517	人			
特殊作業員	4.166	人			
普通作業員	3.081	人			
注入材 エポキシ樹脂注入材3種	2.380	kg			
シール材 エポキシ樹脂	9.796	kg			
低圧注入器具 低圧注入器	174.000	個			
諸雑費	6	%			#09
*** 単位当たり ***	1	構造物			
A=43.4 C=2.38 E=7.15 G=174	1構造物当り補修延べ延長(m/構造物) 注入材の必要数量(kg/構造物) シール材の設計数量(kg/構造物) 低圧注入器具の必要数量(個/構造物)		B=1 D=2 F=3	【F】注入材(kg) 【F】シール材(kg) 【F】低圧注入器具(個)	

施工単価表

ダンプトラック運転
オンロード・ディーゼル・4 t 積級

S9050

単第0 -0004 表

1

日 当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
軽油 パトロール給油,2~4KL積載車給油	19.20	L			
運転手(一般)	0.89	人			
ダンプトラック オンロード・ディーゼル 4t積級	1.02	供用日			
タイヤ損耗費 ダンプトラック 4 t (良)	1.02	供用日			
諸雑費	1	式			
*** 単位当たり ***	1	日			
A=2 C=19.2 E=1 G=0	オンロード・ディーゼル・4 t 積級 軽油消費量 (L / 日) 路面状況：良好 労務単価の夜間等割増率		B=0.89 D=1.02 F=1	運転労務数量 (人 / 日) 機械損料数量 (供用日 / 日)	

施工単価表

コンクリート削孔(電動ハンマドリル)

SPK25040114

単第0 -0005 表

削孔深さ30mm以上200mm未満

1

孔 当り

機械構成比: 2.15%

労務構成比: 95.53%

材料構成比: 2.32%

市場単価構成比: 0.00%

標準単価:

684.28000

代表機労材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
<賃>発動発電機(ガソリン発電機) 定格容量2kVA 低騒音	1.03%		<賃>発動発電機(ガソリン発電機) 定格容量2kVA 低騒音		KTPC00041 KTPT00041
その他 電動ハンマドリル 穴あけ能力 38~40mm	0.72%		電動ハンマドリル 穴あけ能力 38~40mm		MTPC00146 MTPT00146
その他(機械)			その他(機械)		EK009
特殊作業員	45.54%		特殊作業員		RTPC00001 RTPT00001
普通作業員	18.55%		普通作業員		RTPC00002 RTPT00002
土木一般世話役	13.59%		土木一般世話役		RTPC00009 RTPT00009
その他(労務)			その他(労務)		ER009
ガソリン,レギュラー スタンド渡し,スタンド給油	1.89%		ガソリンレギュラースタンド		TTPC00014 TTPT00014
その他(材料)			その他(材料)		EZ009

施工単価表

笠木撤去・設置
6m

V000000500

単第0 -0012 表

頁0 -0020

6 m 当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
土木一般世話役	1	人			
普通作業員	1	人			
溶接工	1	人			
笠木 4m	2	本			
ボルトナット	8	組			
雑材料	10	%			#01
*** 合計 ***	6	m			
*** 単位当たり ***	1	m			

施工単価表

現場発生品及び支給品運搬

SPK25040411

単第0 -0013 表

クレーン装置付BT2t積2.9t吊

片道運搬距離3.0km以下(1.5km超)

1

t 当り

機械構成比: 13.79% 労務構成比:

83.40% 材料構成比: 2.81%

市場単価構成比: 0.00%

標準単価:

1,646.20000

代表機材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
トラック クレーン装置付 ベーストラック2t積吊能力2.9t	13.79%		トラック クレーン装置付 ベーストラック2t積吊能力2.9t		MTPC00154 MTPT00154
運転手(特殊)	42.15%		運転手(特殊)		RTPC00006 RTPT00006
特殊作業員	41.25%		特殊作業員		RTPC00001 RTPT00001
軽油 パトロール給油,2~4KL積載車給油	2.81%		軽油パトロール給油		TTPC00013 TTPT00013
積算単価			積算単価		EP001
A=1 C=3 クレーン装置付BT2t積2.9t吊 片道運搬距離3.0km以下(1.5km超)			B=2 DID区間有り		

5-2. ひびわれ補修工

種別 部材	エポキシ樹脂 注入材3種	エポキシ樹脂 注入材3種	エポキシ樹脂 注入材3種
第一径間頂版	16.90 m	3.45 m	— m
第一径間A1橋台	2.55 m	0.50 m	— m
第一径間P1橋脚	0.85 m	— m	— m
第二径間頂版	7.80 m	— m	— m
第三径間頂版	8.30 m	0.80 m	— m
第三径間P2橋脚	0.50 m	— m	— m
第三径間A2橋台	1.00 m	— m	— m
第三径間張出床版	0.70 m	— m	— m
合計	38.60 m	4.75 m	— m

5-2-1. ひびわれ注入工（低圧注入工法）

(1) ひびわれ延長

1) エポキシ樹脂注入材3種

・ $0.2 \leq w < 0.5$

$$L = 16.90 + 2.55 + 0.85 + 7.80 + 8.30 + 0.50 + 1.00 + 0.70 = 38.60 \text{ m}$$

・ $0.5 \leq w < 1.0$

$$L = 3.45 + 0.50 + 0.80 = 4.75 \text{ m}$$

$$\Sigma L = 43.35 \text{ m}$$

(2) シール材（エポキシ樹脂系） ※ロス率は「土木工事標準積算基準書」を参考とする
 ※単位重量は一般的な製品を参考とした

$$w = 50 \text{ mm (仮定)}$$

$$t = 3 \text{ mm (仮定)}$$

$$\gamma = 1.10 \text{ (仮定)}$$

$$w1 = 43.35 \times 0.050 \times 0.003 \times 1100 = 7.15 \text{ kg}$$

$$w2 = 7.15 \times 0.37 = 2.65 \text{ kg}$$

ロス率37%

$$\text{(ロス率含む) } \Sigma W = 9.80 \text{ kg}$$

(3) 注入材

- 1) エポキシ樹脂注入材3種 ※ロス率は「コンクリートメンテナンス協会」を参考とする
※単位重量は一般的な製品を参考とした

・ $0.2 \leq w < 0.5$

$$\begin{aligned} w &= 0.35 \text{ mm (0.2~0.5mmの平均を仮定)} \\ t &= 70 \text{ mm (仮定) ※ひびわれ幅} \times 200 \text{ (コンクリートメンテナンス協会より)} \\ \gamma &= 1.15 \text{ (仮定)} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} w1 &= 38.60 \times 0.00035 \times 0.070 \times 1150 &= 1.09 \text{ kg} \\ w2 &= 1.09 \times 0.40 &= 0.44 \text{ kg} \\ &\text{ロス率40\%} \end{aligned}$$

・ $0.5 \leq w < 1.0$

$$\begin{aligned} w &= 0.75 \text{ mm (0.5~1.0mmの平均を仮定)} \\ t &= 150 \text{ mm (仮定) ※ひびわれ幅} \times 200 \text{ (コンクリートメンテナンス協会より)} \\ \gamma &= 1.15 \text{ (仮定)} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} w1 &= 4.75 \times 0.00075 \times 0.150 \times 1150 &= 0.61 \text{ kg} \\ w2 &= 0.61 \times 0.40 &= 0.24 \text{ kg} \\ &\text{ロス率40\%} &\text{(ロス率含む) } \Sigma W = 2.38 \text{ kg} \end{aligned}$$

(4) 注入器 (低圧注入器)

・ 設置間隔 : 250mm間隔

$$N = 43.35 / 0.25 = 174 \text{ 個}$$

5-2-2. ひびわれ 数量計算書

番号	部 位	ひびわれ延長(m)					備 考
		$w < 0.2\text{mm}$	$0.2 \leq w < 0.5\text{mm}$	$0.5 \leq w < 1.0\text{mm}$	$1.0 \leq w \leq 5.0\text{mm}$	$5.0\text{mm} < w$	
	第一径間頂版	H1	H2	H3	H4	H5	
1				0.30			
			0.30				
2			0.30				
			0.30				
			0.30				
			0.20				
			0.30				
3			0.30				
			0.30				
4			0.30				
5			0.30				
			0.30				
6			0.30				
			0.20				
7				0.30			
				0.25			
				0.25			
				0.30			
9			0.60				
			0.20				
11			0.25				
			0.70				
13			0.80				
15			0.30				
			0.60				
			0.70				
			0.65				
			0.30				
16			1.10				
			0.30				
			0.30				
18			0.80				
			0.50				
			0.30				
19			1.00				
20			0.30				
			0.30				
21				1.65			
				0.40			
22			0.45				
24			0.55				
			0.40				
26			0.60				
27			0.30				
			0.30				
28			0.30				
			0.30				
	小計		16.90	3.45			
	第一径間A1橋台						
90				0.50			
92			0.30				
93			0.40				
			0.25				

5-2-2. ひびわれ 数量計算書

番号	部 位	ひびわれ延長(m)					備 考
		w<0.2mm	0.2≦w<0.5mm	0.5≦w<1.0mm	1.0≦w≦5.0mm	5.0mm<w	
93	第一径間A1橋台		0.25				
94			0.25				
95			0.40				
97			0.40				
100			0.30				
	小計		2.55	0.50			
	第一径間P1橋脚						
104			0.40				
105			0.25				
108			0.20				
	小計		0.85				
	第二径間頂版						
30			0.30				
31			0.25				
			0.30				
33			0.20				
34			0.20				
35			0.40				
36			0.40				
37			0.30				
40			0.30				
44			1.20				
47			0.60				
51			0.70				
			0.20				
54			0.30				
55			0.30				
			0.25				
56			0.25				
			0.25				
			0.40				
57			0.30				
58			0.30				
59			0.10				
	小計		7.80				
	第三径間頂版						
61			0.30				
62			0.30				
63			0.30				
68			0.70				
72				0.80			
76			1.10				
78			1.40				
80			1.40				
84			0.60				
85			0.40				
86			0.30				
87			0.30				
88			0.30				
			0.30				
89			0.30				
			0.30				
	小計		8.30	0.80			

5-2-2. ひびわれ 数量計算書

番号	部 位	ひびわれ延長 (m)					備 考
		$w < 0.2\text{mm}$	$0.2 \leq w < 0.5\text{mm}$	$0.5 \leq w < 1.0\text{mm}$	$1.0 \leq w \leq 5.0\text{mm}$	$5.0\text{mm} < w$	
	第三径間P2橋脚						
118			0.30				
119			0.20				
	小計		0.50				
	第三径間A2橋台						
122			0.10				
			0.10				
123			0.20				
124			0.40				
125			0.20				
	小計		1.00				
	第三径間張出床版						
127			0.70				
	小計		0.70				

5-3. 断面修復工(左官工)

- ・頂版かぶり厚： $\boxed{68}$
- ・頂版鉄筋径： $\boxed{12}$
- ・頂版はつり深：
$$\begin{array}{r} 68 + 12 + 10 \\ = 90 \approx 90 \text{ mm} \end{array}$$
- ・張出床版かぶり厚： $\boxed{52}$
- ・張出床版鉄筋径： $\boxed{13}$
- ・張出床版はつり深：
$$\begin{array}{r} 52 + 13 + 10 \\ = 75 \approx 80 \text{ mm} \end{array}$$
- ・下部工かぶり厚： $\boxed{49}$
- ・下部工鉄筋径： $\boxed{13}$
- ・下部工はつり深：
$$\begin{array}{r} 49 + 13 + 10 \\ = 72 \approx 75 \text{ mm} \end{array}$$
- ・地覆, 護岸, 水路側面の補修深さは下部工と同等と仮定し75mmとする。

5-3-1. 左官工法 (塩害対策工法 鉄筋ケレン・防錆処理を含む)

・SSI工法

$$\begin{array}{r} V = \\ 0.035 + 0.237 + 0.051 + 0.008 \\ 0.045 + 0.037 + 0.014 + 0.085 \\ 0.006 + 0.039 + 0.125 + 0.449 \\ 0.298 \end{array} = 1.429 \text{ m}^3$$

5-3-2. 殻運搬

$$V = 1.429 = 1.4 \text{ m}^3$$

5-3-3. 殻処分 (Con殻無筋)

$$V = 1.400 = 1.4 \text{ m}^3$$

$$W = 1.400 \times 2.35\text{t} = 3.3 \text{ t}$$

5-3-4. 断面修復工(左官工) 数量計算書

番号	部 位	形状・寸法 (m × m)	補修面積 (m ²)	補修深さ (m)	塗布面積 (m ²)	補修体積 (m ³)	備 考
	第一径間頂版						
8		0.15 × 0.10	0.015	0.090	0.060	0.001	
10		0.55 × 0.30	0.165	0.090	0.318	0.015	
12		0.15 × 0.15	0.023	0.090	0.077	0.002	
14		0.15 × 0.15	0.023	0.090	0.077	0.002	
		0.15 × 0.15	0.023	0.090	0.077	0.002	
17		0.05 × 0.15	0.008	0.090	0.044	0.001	
		0.05 × 0.10	0.005	0.090	0.032	0.001	
23		0.15 × 0.05	0.008	0.090	0.044	0.001	
		0.15 × 0.05	0.008	0.090	0.044	0.001	
25		0.40 × 0.25	0.100	0.090	0.217	0.009	
	小計		0.378		0.990	0.035	
	第一径間A1橋台						
91		2.10 × 0.80	1.680	0.075	2.115	0.126	
96		0.10 × 0.60	0.060	0.075	0.165	0.005	
98		0.40 × 0.70	0.280	0.075	0.445	0.021	
		0.70 × 1.10	0.770	0.075	1.040	0.058	
99		0.30 × 1.20	0.360	0.075	0.585	0.027	
	小計		3.150		4.350	0.237	
	第一径間P1橋脚						
101		0.10 × 0.50	0.050	0.075	0.140	0.004	
102		0.20 × 0.10	0.020	0.075	0.065	0.002	
103		0.20 × 0.05	0.010	0.075	0.048	0.001	
106		1.40 × 0.25	0.350	0.075	0.598	0.026	
107		0.60 × 0.40	0.240	0.075	0.390	0.018	
	小計		0.670		1.241	0.051	
	第一径間地覆						
134		0.45 × 0.25	0.113	0.075	0.218	0.008	
	小計		0.113		0.218	0.008	
	第一径間護岸工						
138		0.65 × 0.70	0.455	0.075	0.658	0.034	
139		0.50 × 0.30	0.150	0.075	0.270	0.011	
	小計		0.605		0.928	0.045	
	第二径間頂版						
29		0.20 × 0.15	0.030	0.090	0.093	0.003	
32		0.10 × 0.10	0.010	0.090	0.046	0.001	
38		0.20 × 0.30	0.060	0.090	0.150	0.005	
39		0.20 × 0.15	0.030	0.090	0.093	0.003	
41		0.15 × 0.15	0.023	0.090	0.077	0.002	
42		0.15 × 0.20	0.030	0.090	0.093	0.003	
43		0.15 × 0.15	0.023	0.090	0.077	0.002	
45		0.15 × 0.20	0.030	0.090	0.093	0.003	
46		0.15 × 0.05	0.008	0.090	0.044	0.001	
48		0.05 × 0.05	0.003	0.090	0.021	0.001	
49		0.15 × 0.15	0.023	0.090	0.077	0.002	
50		0.10 × 0.05	0.005	0.090	0.032	0.001	
52		0.10 × 0.20	0.020	0.090	0.074	0.002	
		0.10 × 0.15	0.015	0.090	0.060	0.001	
53		0.15 × 0.50	0.075	0.090	0.192	0.007	
	小計		0.385		1.222	0.037	

5-3-4. 断面修復工(左官工) 数量計算書

番号	部 位	形状・寸法 (m × m)	補修面積 (m ²)	補修深さ (m)	塗布面積 (m ²)	補修体積 (m ³)	備 考
	第二径間P1橋脚						
109		0.10 × 0.30	0.030	0.075	0.090	0.002	
110		0.75 × 0.20	0.150	0.075	0.293	0.011	
111		0.10 × 0.10	0.010	0.075	0.040	0.001	
	小計		0.190		0.423	0.014	
	第二径間P2橋脚						
112		0.50 × 0.20	0.100	0.075	0.205	0.008	
		0.70 × 0.15	0.105	0.075	0.233	0.008	
		0.70 × 0.65	0.455	0.075	0.658	0.034	
113		0.10 × 0.15	0.015	0.075	0.053	0.001	
		0.05 × 0.05	0.003	0.075	0.018	0.001	
		0.05 × 0.10	0.005	0.075	0.028	0.001	
		0.05 × 0.10	0.005	0.075	0.028	0.001	
		0.05 × 0.05	0.003	0.075	0.018	0.001	
114		0.85 × 0.15	0.128	0.075	0.278	0.010	
115		0.20 × 1.25	0.250	0.075	0.468	0.019	
116		0.20 × 0.05	0.010	0.075	0.048	0.001	
	小計		1.079		2.035	0.085	
	第二径間地覆						
135		0.10 × 0.10	0.010	0.075	0.040	0.001	
136		0.20 × 0.15	0.030	0.075	0.083	0.002	
137		0.20 × 0.20	0.040	0.075	0.100	0.003	
	小計		0.080		0.223	0.006	
	第三径間頂版						
60		0.20 × 0.20	0.040	0.090	0.112	0.004	
64		0.30 × 0.05	0.015	0.090	0.078	0.001	
65		0.30 × 0.10	0.030	0.090	0.102	0.003	
66		0.30 × 0.10	0.030	0.090	0.102	0.003	
67		0.05 × 0.10	0.005	0.090	0.032	0.001	
		0.05 × 0.10	0.005	0.090	0.032	0.001	
69		0.20 × 0.15	0.030	0.090	0.093	0.003	
70		0.05 × 0.20	0.010	0.090	0.055	0.001	
		0.10 × 0.15	0.015	0.090	0.060	0.001	
71		0.20 × 0.05	0.010	0.090	0.055	0.001	
73		0.15 × 0.15	0.023	0.090	0.077	0.002	
74		0.20 × 0.15	0.030	0.090	0.093	0.003	
75		0.05 × 0.20	0.010	0.090	0.055	0.001	
		0.10 × 0.15	0.015	0.090	0.060	0.001	
77		0.15 × 0.15	0.023	0.090	0.077	0.002	
79		0.10 × 0.05	0.005	0.090	0.032	0.001	
81		0.30 × 0.05	0.015	0.090	0.078	0.001	
82		0.15 × 0.05	0.008	0.090	0.044	0.001	
		0.15 × 0.05	0.008	0.090	0.044	0.001	
83		0.25 × 0.30	0.075	0.090	0.174	0.007	
	小計		0.402		1.455	0.039	
	第三径間P2橋脚						
117		1.60 × 0.50	0.800	0.075	1.115	0.060	
		1.20 × 0.30	0.360	0.075	0.585	0.027	
		0.60 × 0.20	0.120	0.075	0.240	0.009	
120		0.65 × 0.45	0.293	0.075	0.458	0.022	
121		0.95 × 0.10	0.095	0.075	0.253	0.007	
	小計		1.668		2.651	0.125	

5-4. 鉄筋継手工

5-4-1. 鉄筋工

(1) コンクリート削孔 (φ22)

$$N = 12 = 12 \text{ 孔}$$

(2) 差筋材料 (金属拡張型差筋アンカーD16)

金属拡張型差筋アンカーD16 L=720

$$n1 = 6 = 6 \text{ 本}$$

金属拡張型差筋アンカーD16 L=900

$$n2 = 6 = 6 \text{ 本}$$
$$\Sigma N = \frac{6 \text{ 本}}{12 \text{ 本}}$$

5-5. 表面被覆工

5-5-1. 表面被覆工（高分子系浸透性防水材）

$$A = 59.92 + 63.40 = 123.32 \text{ m}^2$$

(1) 下地処理工（サンダーケレン）

$$A = 123.32 = 123.32 \text{ m}^2$$

(2) 被覆材塗布工

$$A = 123.32 = 123.32 \text{ m}^2$$

(3) 被覆材塗布 ※標準使用量及びロス率は「アイゾールEX」を参考とする

$$w1 = 123.32 \times 0.25 = 30.83 \text{ kg}$$

(標準使用量)

$$w2 = 30.83 \times 0.05 = 1.54 \text{ kg}$$

ロス率：5%

$$\Sigma W = 32.37 \text{ kg}$$

5-5-1. プライマー塗布工（水性エポキシ樹脂系浸透型防水プライマー）

(1) プライマー塗布工

$$A = 63.40 = 63.40 \text{ m}^2$$

(2) プライマー塗布 ※標準使用量及びロス率は「アイゾールEX AE仕様」を参考とする

$$w1 = 63.40 \times 0.20 = 12.68 \text{ kg}$$

(標準使用量)

$$w2 = 12.68 \times 0.05 = 0.63 \text{ kg}$$

ロス率：5%

$$\Sigma W = 13.31 \text{ kg}$$

5-6. 笠木取替工

5-6-1. 部材撤去・設置

・部材撤去・設置

$$L = 6.350 = 6.350 \text{ m}$$

5-6-2. 既設ガードレール運搬

金属くず ([150×50×3.2×4,000 6.0kg/m)

$$W = 6.350 \times 6.00 = 38.10 \text{ kg}$$

$$W = 38.100 \times 0.001 = 0.038 \text{ t}$$

5-6-3. 既設ガードレール処分

金属くず ([150×50×3.2×4,000 6.0kg/m)

$$W = 38.100 \times 0.001 = 0.038 \text{ t}$$